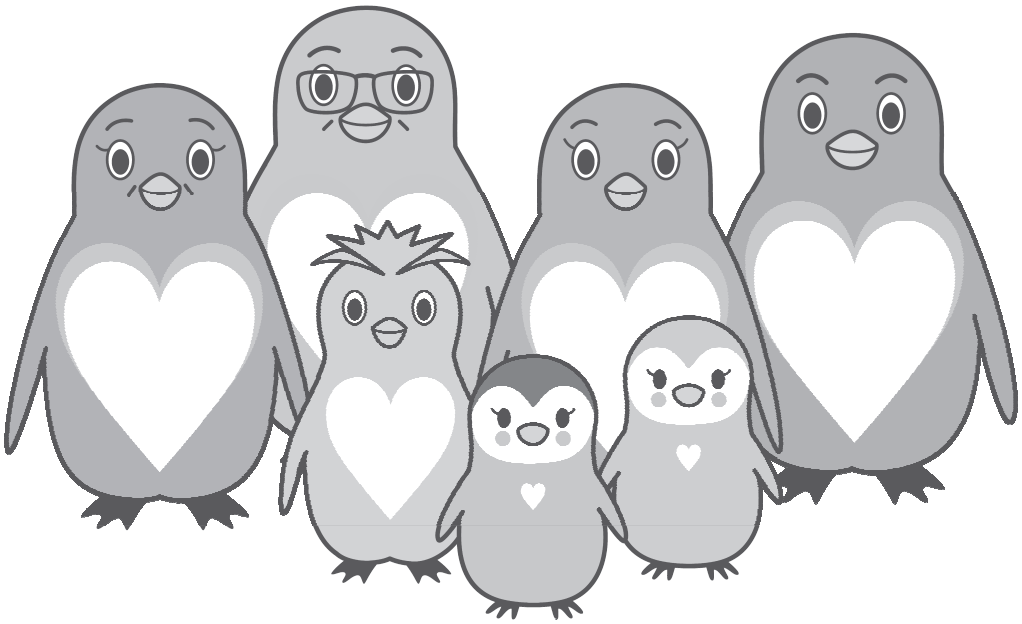
養育家庭（里親）体験発表集
（令和元年度）



東京都里親制度普及啓発キャラクター
「さとぺん・ファミリー」

東京都福祉保健局少子社会対策部

「養育家庭（里親）体験発表集」の発行に当たって

都内には、様々な理由により親元で暮らすことのできない子供が約4,000 人います。そのような子供を、自らの家庭に迎え入れ、家庭的な環境で育てているのが「里親」であり、東京都ではその制度の普及に取り組んでいます。「養育家庭」は里親制度の一つであり、養子縁組を目的とせず、一定期間子供を育てる家庭です。

毎年、東京都は各区市町村と協力し、都内各地で養育家庭（里親）体験発表会を開催しています。この冊子は、令和元年度に開催された体験発表会において、養育家庭（里親）の皆さんに発表していただいた内容を要約し、冊子にまとめたものです。

養育家庭（里親）になろうと思ったきっかけ、子供を委託されていた時の思い、交流中の思いがけない出来事や慌ただしい日々の様子などが描かれています。

また、委託後の子供の赤ちゃん返りなどの問題や実子と委託児童の関係、子供を途中から育てることゆえの悩みについても語られています。

しかし、そういった御苦労の中にも、子供が少しずつ家庭になじんで心が通じ合っていくのが実感でき、養育家庭（里親）をやっていて良かったという話や、悩んだ時に養育家庭（里親）仲間や児童相談所の職員など周りの人から支えてもらった話など、養育家庭（里親）だからこそ味わえる子育ての素晴らしさにも触れています。

より多くの都民の皆様にお読みいただき、都内における養育家庭（里親）に対する理解を深めていただく契機になれば幸いです。

令和２年８月

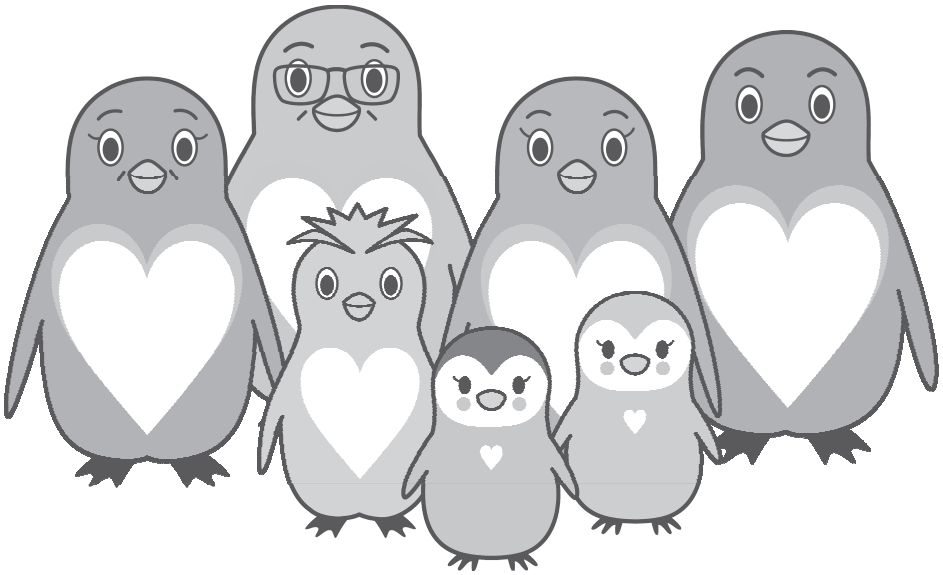
東京都福祉保健局少子社会対策部育成支援課長

玉　岡　　雄　太

目　　次

１　里親家庭が私の実家　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２
２　里親になるまで、長期委託と一時保護　・・・・・・・・・・・・・　４
３　里親と暮らす日々で変わっていく子供たち　・・・・・・・・・・・　６
４　一緒にいた時間が家族にさせてくれる　・・・・・・・・・・・・・・　８
５　家族という基盤　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１０
６　一時保護預かりの里親として　～とまり木のような存在でありたい～　・・・　１２
７　きょうだい（里子）との生活～実子の葛藤、私の気持ち　・・・　１４
８　初めての子育て～７階まで笑顔で上る女の子～　・・・・・・　１６
９　家族で力を合わせて　～会えなくなっても、里子の幸せを願って～　・・・・　１８
１０　寄り添いながら、積み重ねながら　～７年間を振り返って～　・・・　２０
１１　４人家族が５人家族になるまで　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２２
１２　12年間の里子との日々～乳児院での交流から高校生の現在まで～・・・・・　２４
１３　養育家庭という家族　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２６
１４　子供と一緒に暮らし、成長を見守れる幸せを感じて　・・・　２８
１５　たくさんの喜びと幸せに溢れた里親の日々・・・・・・・・・・・　３０
１６　二つの里親家庭とつながって　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３２
１７　お互いに我慢をしないで、つながっていく　・・・・・・・・・・・・・　３４
１８　子供との潤いのある毎日～優しい兄と社交的な弟～・・・　３６
１９　５歳の男の子が社会人になるまで　～成長を感じる今～　・・・・　３８

養育家庭（里親）体験発表会に、ようこそ！！



この体験発表集には、19組の養育家庭（里親）の方たちの養育体験がつづられています。

より多くの方々に、この里親制度を知っていただき、ご理解と共感を得られることを、何よりも願っています。

そのことが、養育家庭（里親）の方と、そこで生活する子供たちを支えることにつながるのです。

1　里親家庭が私の実家

【元里子】

私の実母は中国人で、私を生んですぐに、出生届も出さず、中国に戻ってしまいました。父親は不明で、母親も行方不明になったので、私は無国籍となってしまいました。生後すぐから乳児院に預けられ、その後、児童養護施設で小学校 3 年生まで過ごしました。里親さんの家に何度か泊まるなどの交流を 4 か月くらい続け、措置が決まりました。よく覚えていませんが、3 週間くらい交流が途切れた時に、なんで来てくれなかったのと、里親さんに怒っていたようです。

私は生まれつき視力が弱く、勉強も遅れていました。里親さんが公文を習わせてくれたおかげで、読み書き、計算ができるようになりました。妹に本を読んであげても、「M ちゃんじゃなくてお母さんが読んで。」と言われていたのですが、公文を続けるうちに、「M ちゃん、読んで。」といわれるようになりました。今では、教会に来ている小さい子供たちに、絵本を読んであげて、喜ばれています。

小学生の頃の私は、言われたことと反対のことをしてしまうような子だったようです。ある時、里母さんに、「そっちに行ったらだめよ。」と言われていたのに、私はそっちに行ってしまい、泥だらけになってしまったこともありました。ダメと言われると、やってみたくなったようで、皆を困らせることが多く、かなりの問題児だったようです。私は、そんなことはお構いなく、のびのびと過ごしていました。

小学校では、男の子達にいじめられることも多く、移動教室の時に、板を渡しただけの小さな橋が怖くて渡れずにいた時、男の子達に「早く渡れよ！」と急かされて、泣いてしまったことも有りました。女の子たちはとても優しくて、その時も手を引いてくれました。

5 年生の時、命について考えるという道徳の授業がありました。両親が子供達に手紙を書いて、子供がそれを発表するというものでした。

里母さんの手紙には、「M は色々ハンデがあるし、お父さんもお母さんもどこにいるかわからない。でも、今はここが M の家だし、私たちが M の本当のお父さん、お母さんなのよ。」と書いてありました。とても嬉しくて、私は皆の前で自分のことを話すことができました。あとから聞いた話では、私をいじめていた男の子達が私の話を聞いて、「M も大変だったんだな。」と先生に話していたそうです。

中学校は、小学５年生から関わっていた『ひとみの教室（弱視学級）』の先生の紹介で、久我山盲学校に行くことを決めました。久我山盲学校では、ほぼ 1 対 1 の授業で、わかるまでゆっくり教えてもらえたので、私なりにしっかり勉強することができました。

中学生の時には、JR からの招待で、里母さんと 2 人で北海道旅行に行きました。里親宅の家族旅行やキャンプには行っていましたが、里母さんと 2 人だけで出かけることが少なかったので、里母さんを独占できてすごく嬉しかったです。楽しい思い出ができました。

中学以降の進路を決める時、「18 歳になったら自立しなくてはいけないのだから、もっとしっかりしなさい。」と先生から言われ、私は、（18 歳になったらこの家を出なくてはいけないんだ。）と不安になって荒れた時期がありました。その時に、里母さんから、「どうしたの。最近おかしいね。」と聞

かれました。不安を打ち明けたところ、「M が自立できるようになるまで、ここにいていいのよ。」と里母さんは言ってくれました。私は、その言葉に安心することができました。

高校も盲学校に行こうと決めて、八王子盲学校に進学しました。高校では、陸上競技や最近パラリンピックで話題になっているゴールボールをやっていました。体調を崩して入院したりしたのも、高校時代が一番多かったように思います。この時も、本当に里親さんには大変お世話になりました。

高校卒業後の進路を決める時には迷いましたが、あん摩マッサージの国家資格を取るために、専攻科に行くことを決めました。専攻科の 1 年間は里親さんのもとにいましたが、家が楽しくて遊んでしまい、全く勉強をしませんでした。見かねた里母さんから、「このままだと、国家試験に合格できませんよ。寮に入った方がいいんじゃない。」と言われました。私は、「寮に入るくらいなら、一人暮らしをする！」と言い張りました。里母さんに「お金はどうするの。」と聞かれるまで、私は全くお金のことを考えていませんでした。一人暮らしは簡単にできるものだと思っていたのです。

里母さんが生活保護の申請をしてくれたおかげで、私は一人暮らしをすることができました。そして 3 年間学校に通い、ぎりぎりでしたが、国家試験に合格することができました。

現在は、訪問マッサージの会社で、正社員として働いています。上司の方がよくしてくださるので、楽しく働けています。特に、部長さんの家族とは、娘さんと同い年であることもあり、一緒に旅行に行くなど、家族の一人のように受け入れてくれています。

里親さんの家は、私の本当の実家です。週に 2 回は顔を出し、泊まることも多いです。里親さんは、私にとって本当の両親です。初めてのお給料で、一緒に食事をして以来、年に 1 回、私の招待で里親さんと 3 人で食事をすることを楽しみにしています。

私の国籍については、里親宅に行ってから、里母さんが 3 年がかりで中国国籍を取ってくれました。また、高校卒業後に、里親さんの娘さん 2 人が、行方不明の実母の住所があった中国の福建省に連れて行ってくれました。国籍だけ中国で、中国語もわからない私でしたが、その旅行を通じて、心の整理がついたように思います。

そして、4 年前に日本の国籍を取ることができました。通称姓だった里親さんの苗字が、正式に私の本名となりました。

最後になりますが、弱視などの多くのハンデを持つ私が今、社会人として毎日幸せに過ごすことができているのは、里親さんをはじめ、沢山の方々のサポートがあったおかげだと思います。とても感謝しています。ありがとうございました。

２　里親になるまで、長期委託と一時保護

【里母】

６歳の男の子を２歳半の時に長期委託として迎え、他には一時保護として、生後２週間から１７歳までの子どもが様々な理由で家にきて生活しました。一時保護の子は、１週間で帰った子もいるし、２か月一緒に生活した子もいます。

私が里親になった切っ掛けは、子どもがいないことでした。子どもが欲しいという気持ちで、里親になったらいいかなと思いました。しかし、里親になりたい気持ちはあっても、子どもの人生を自分が背負って、一人の人生を見ていけるのだろうかとも思いました。

それから 3 年くらいずっと悩み続けました。丁度その時、私は保育園で働いていました。私が担当した子どもの中で、家庭環境があまり良くなく、障害はないけれど、障害児のような行動をとる子どもがいました。その子が卒園 1 か月前に虐待で通報されて、一時保護されたという連絡がありました。一時保護所では、幼稚園や保育園に通うことはできません。その時に私は「この子だったら見れるかも。」と思いました。（うちに預けられたら、一緒に保育園に通えるのに。）と、単純に考えました。

その件で、ちょっと背中を押されて、最初に児童相談所に電話して、直接相談に行く日を決めました。児童相談所では「里親という制度は二つあって、戸籍に入る特別養子縁組と、戸籍は違うけど育てていく養育家庭がある。」という里親制度の説明を受けました。その時に、「特別養子縁組をする人よりも、養育家庭の里親の手が足りない。」という事を言われて、それならそっちに進みたいなと思いました。

最初私は、相談をしたらすぐ子どもを預かれるのだと思っていました。しかし、そこから研修が 4 回あって、実習が 2 回ありました。その研修も毎日あるものではなく、2 か月に 1 度の日に参加するので、結局相談してから 10 か月くらい時間がかかりました。

私は、長い間悩んだ後だったので、長すぎると思いましたが、私に提案されて心の準備もなかった夫は、研修を受けて、制度をしっかり理解できたことで、制度の中で一緒に子どもを育てていくなら大丈夫という気持ちになったようです。今思うと、この研修は大事だったなと思います。

里親登録したらすぐに子どもがくるかと思ったら、子どもと家庭のマッチングが難しく、登録後 1 年半くらい待ちました。待つ時間はとても長く感じましたが、その時期があったからこそ、子どもとの関わりが本当に深くできているんじゃないかなと今は思います。

うちの子は、2 歳半の時に委託になりました。児童相談所から、「こんな子がいるけど、どうですか。」という依頼があって、最初に会ったときにはすごくドキドキした記憶があります。子どもを育てていく不安よりも、子どもと出会った喜びがすごく大きかったんです。

その子は、今でも一緒に暮らしていて、6 歳になりました。来年は小学生になります。

うちに一時保護の 3 回目の子どもが来た時、うちの子は「自分が生まれた時、ママとパパが怖かった。」と言いました。生まれた時と表現しているけど、初めて会ったときのことを言っているなと私は思いました。「最初はママとパパは怖かったんだけど、だんだん好きになっていった。赤ちゃんも最初

はうちに来た時、怖かったと思うよ。でも、ママとパパを好きになるから、ママ、心配しないで。」と言われたとき、この子はうちに来た時すごく緊張していたんだなと思いました。
初めの頃、人を噛んだり、暴れたりする時期がありました。噛んだ子の親に謝りの電話をかけたり、私も辛いと感じましたが、子どもの立場にたつと、それも不安の一つの出方で、どう発散していいかわからなかったんだと思います。今ではすごく落ち着いて生活しています。

今は、この子にどうやって私が里親であると伝えようかというのが、一番悩む部分です。敏感な子なので、自分がどうやってうちに来たかはわかっている感じがしますが、うちの子になりたい願望も強い子だと思うんです。

委託から２～３か月が過ぎたころ、生まれなおしごっこをするようになりました。私の服のおなかの部分に入って、生まれたっていう事で出てきて、赤ちゃんが生まれたから名前を付けるというものです。朝も晩も遊びの時も、私のおなかに入って、生まれる。それが 6 か月くらい続きました。続けている間に、私がお母さんなんだって自分で認識させているような感じがしました。

少しずつ、里親であることを伝えようとして、私が、「うちにまた赤ちゃんが神様から与えられたらいいな。」という話をしたら、「え？赤ちゃんが？神様が赤ちゃんを与えるときはお腹の中だよ。ママ、おなかに赤ちゃんいるの？」と聞かれました。私は「お腹の中に赤ちゃんはいないけど、児童相談所から赤ちゃん紹介してくれるかもよ。うちの家族はお腹からじゃなくても、神様が外から家族にしてくれるから、これから赤ちゃんが来て、また家族が増えるといいね。」と答えたら、そこからなにも反応がありませんでした。自分もそうだとわかっているんだと思います。これから、児童相談所と一緒に、生活の中でさりげなくうちの家族はこんな家族なんだよって伝えていこうかなと思っています。

最後に、一時保護の子ども達のこともちょっと話をしようかなと思います。最初に生後 2 週間の子が来たんです。私はどうしよう、どうしていいかと思っていたんですが、赤ちゃんが来て、家の中が明るくなって、うちの子も最後はやきもちをやいたり、赤ちゃん返りしていましたが、初めは「自分にも兄弟ができた！」と喜んでいました。その子は 2 か月預かって、表情も出てとてもかわいい時期なので、別れがすごくつらく感じました。でも、その子が施設ではなく、家庭でちょっと面倒を見てもらって、また親元に帰る、それが私のやる役割の一つだと思いました。

今まで、5 人の子ども達が一時保護に来て、そのほとんどが家庭に復帰しました。里親が受け入れなかったら、その子たちは家庭じゃなくて施設で過ごすことになります。施設だと集団生活になってしまいますが、里親宅で預かれば、他の親戚の家でちょっと生活をして家庭に戻ったという感覚を持てるんじゃないかなと思います。

里親制度の中には一時保護委託もあって、日本の広い範囲で親戚のように預かってくれる家がいっぱいあったらいいかなと個人的にはそう思っています。

３　里親と暮らす日々で変わっていく子供たち

【里母】

我が家は、里親登録して５年目です。実子はおらず夫婦と猫４匹で10年ほどでのんびり暮らしてきました。今は、中３と３歳の里子が加わりにぎやかな毎日です。これまで長期委託だけでなく、ときには一時保護も受け入れてきました。

養育家庭になることを考えたきっかけは、ある番組で、児童養護施設で育った子供たちが退所後に、頼れる実家がなく、多くの困難を抱えていることを目にしたのが始まりでした。その後児童相談所に里親になりたいと相談に行ってから、登録までは半年ほどでした。親族も好意的に応援してくれて、今でも年に数回は子供たちと一緒に実家に遊びに行ったり、時には助けてもらったりもしています。

登録から数カ月後、高２の女の子を一時保護で十日間ほど預かったのが初めての里親経験になります。明るくよく話す子で、困ることもなく一時保護が終わり、幸先のいいスタートでした。その後現在まで、ほぼ途切れることなく長期委託が続いています。

最初の長期委託は、中３の12月に我が家に来て早々高校受験を頑張ったＪ君です。大学入学を機に措置解除となり、ひとり暮らしを始めるまでの３年半一緒に暮らしました。Ｊ君が来て１年ほどたったころ、釣りや動物が大好きで活発な中１のＴ君が来ました。物静かなＪ君とは違い、家でもガラスや石を砥石で削ってナイフを作ったり、あらゆる物を分解するのに忙しい少年でした。彼とは、中３の６月まで１年半、一緒に暮らしました。

一度くらいは小さい子も長く育ててみたいと思う中で、試しに一時保護で、昨年末に５歳の双子を１カ月間、今年の３月には１歳児を約半月間お世話しました。そこで中高生とは違うおもしろさに気づいて気持ちがかたまり、３歳で乳児院を出るＹちゃんとの交流が４月から始まりました。３月末にＪ君がひとり暮らしを始めた直後には、中３のＨ君が来ることになって、３人目の長期委託となりました。同じころにＹちゃんも委託になり、今では中３のＨ君と３歳のＹちゃんが、いい兄弟として生活しています。

子供たちとの生活では、厄介ごとがそれなりに発生します。中高生の場合、お互いまだ手探りの中、受験や自立に向けた働きかけをする必要があります。また、発達障害の中でも、ＡＤＨＤがある場合、衝動性の高さから来る「やりたくなったら止まらない」というのが厄介でした。ある子は、実家にあるお年玉を、勝手に持ち出してきて豪遊していました。ただ、隠し方もずさんで、悪事はすぐにばれてしまいます。それでも、使い込みを繰り返し、結果15～20万を使ってしまったことが判明しました。もう一つ衝撃の事件がありました。家では猫を飼っているため、鳥のひなを拾って持ち帰ってはいけないと何度も言っていました。しかし、ある日ひなを持ち帰ってしまい、家に帰ると、居間に鳥の羽毛が散らばり、ほかは跡形もなく消えていました。こういう問題行動が繰り返される時期には、児相の心理担当の方が家を訪れて面談していました。現在、家にいる３歳のＹちゃんの場合は、普通の家庭が初めてなので、来たばかりの頃は何もかもが珍しくて、家中の引き出しや戸棚を全て開けて中を確認していました。最初は危ないものを触らないように神経をつかいました。

一方、子供にとっても、育ってきた環境と違う生活は大変だと思います。最初の数カ月は、子供の

特徴を見きわめつつ、衣食住についてお互いに許容できるラインを調整する作業が必要です。それでも私自身の忍耐力の限界や弱点を発見することがあります。例えば里子が全く片づけず、年中、泥棒が入った後のような汚部屋で生活していたときは、部屋を見るとイライラするので、なるべく行かないようにしました。また、小さい子供はかわいいとはいえ、私は大声や泣き声などが苦手で、また昼間一人になれる時間が全くないことも疲れるとわかりました。ただ、苦手なものは諦め、夫がいるときにはなるべく任せ、一時保育なども利用して、ストレスを溜めないようにしています。

このようにお話しすると、里親は大変なことばかりと思われるかもしれません。ただ、夫婦だけでは絶対に得られない、刺激に満ちた時間を過ごせるというのが、色々あっても続けている最大の理由です。そして、子供たちが何かのきっかけで、大きく変わっていくのを間近で見られるのが里親をしている醍醐味ではないかと思っています。

例えば、中３の冬に来たＪ君は、高校入学時には部活動中心の生活でした。しかし、悩みながらも卒業後の進路を大学で語学を学ぶと決め、実親さんとの関係にも折り合いをつけて措置解除になりました。また、この４月に我が家に来たH君は、何年間も不登校で、小学校から学習も止まっていました。最近、近所の中学に転校し、ふとしたきっかけで友達ができると毎日登校するようになると、学校が楽しく自分は青春していると充実した毎日を送っています。学習面でも、塾に通い、勉強がわかるようになるのが楽しいようで、高校進学など初めて会ったときからは考えられないことばかりです。

我が家は、中高生中心で真実告知という必要もなく、私はあくまでもホームステイ先のおばさんのような存在です。普通の家族観に縛られず、適当に共同生活をしようというスタンスで里親を続けています。いいことは褒め、悪い部分は見過ぎず、片目で確認しつつも構い過ぎず、適度な距離感を保ち、困りごとは一人で抱え込まずに、人を頼って相談し、自分は社会的養護の担い手の一部と割り切って関わっています。

最後になりましたが、知っていただきたいことが２点あります。まずは、養育家庭がもっと必要だということです。養育家庭はたった数年間でも子供のためになり、社会に貢献できる活動です。中でも、中高生の需要が多いのに、受け入れる里親が少ないという現実があります。この機会にぜひ中高生との生活もイメージしていただければと思います。もう一つが、近年の虐待事案の増加で、一時保護が非常に増えているということです。数日間や数カ月であれば引き受けられるという方もいるかもしれません。どんな年代の子供と一緒に生活するのがいいのか想像できないという方は、一時保護でさまざまな年代のお子さんを預かってみるというのも一つの方法かもしれません。さらに、もしかしたらこれが一番大切かもしれませんが、里親にならなくても、社会的養護のサポーターとして、普通とは少し違う家族のあり方をそのまま受け入れて、見守っていただければと思っています。どのような形であれ、これを機会に少しでも社会的養護に興味を持っていただければ幸いです。

４　一緒にいた時間が家族にさせてくれる

【元里子】

１２年間里子として生活をしていました。１２年間、数字にしてあらわすと、すごく長い時間を過ごしてきたなと、とても感慨深いです。

私が、里親さんのところに来たのが、小学校に入学するほんの少し前だったので、それから高校を卒業するまでの１２年間、長いようで本当にあっという間でした。

この体験発表会というお話をいただいてから、自分の過去をたくさん振り返ることができて、本当にたくさんの方にお世話になったなということや、いろいろなことがあったなと感じることができたので、すごくいい機会を与えていただけたなと、とても感謝しています。

まず、措置解除になるまでの話を、順を追って話していきたいと思います。

私が、里親さんのおうちに来たのが、６歳のときのことなので、その前３歳から６歳までは、ほかの施設で暮らしていました。小さいときだったのでよく覚えていませんが、多分里親宅に行くという話が出て、それで面談を何回も行いました。私もすごい人見知りだったので怖かったのですが、だんだん話していくうちに、心も開いていきました。私の１個下の里子がいるんですけど、その子も来て、より心が開いて、それで正式に里親さんのおうちに行くことになりました。

最初の日をすごく鮮明に覚えているのですが、おうちに行く前にコンビニに行ってお菓子やガチャガチャも買ってもらいました。家についてリビングに行くと、私の三つ上のお兄ちゃんが座っていて、それで一緒にさっき買ったお菓子を食べたというのが、すごく覚えていることです。３個上のお兄ちゃんは、とても静かな方なので、とても静かな部屋でポテチを食べたことがすごく記憶に残っています。

そこから小学校に上がるまで里親宅で過ごして、今までいたところは施設だったので大人数の場所でしたが、里親宅は家族に近い形で、ご飯食べる時間も、お風呂の時間も決まっていないところでした。里親さんの実のお子さんが５人いらして、当時は私含め、里子が３人いたので、みんなでゲームしたりとか、お風呂に一緒に入ったりとか、そういうのがすごく楽しかったです。

ちょうど小学校に入学するときに里親宅に来たので、タイミングがよかったなというふうに思っています。友達もたくさんできて、みんなすごく優しく、仲よくなれました。家から近かったので、みんなで小学校に通ったといういい思い出です。

家族との思い出も、たくさんありまして、土曜日は私と１個下の弟とお父さんとよく公園に行って、遊びました。公園が結構広いところで、公園に行くまでにお菓子買って、ジュース買って、一緒に食べるというのがすごく楽しみでした。

日曜日は、私のおうちはマーチングバンドをしていまして、楽器とか音楽に触れる機会がたくさんあって、私は小さいときから音楽が好きだったので、すごく楽しい経験をさせていただいたなと思います。

夏休みも楽しいことがたくさんありました。３個上のお兄ちゃんは虫がすごく好きで、カブトムシ

を捕まえるために近くの公園に行って、ストッキングにバナナを入れたものをつるして朝獲りに行くということをしていました。あとは、みんなで蛍を見に行きました。今は空気も汚くなっているので見られないと思いますが、すごくきれいで、それがすごく印象的なことでした。家族も多いので誕生日のときには、家族で机を囲んでちらしずしをつくって食べたりしたのも、すごく楽しかったです。

逆につらかったことは、やっぱり親に会えないので、すぐ泣いてしまうし、すごく繊細な子なので、来た当初から小学校低学年ぐらいまでは結構毎日泣いていました。あとは、私の実の母親が名字を変えないで過ごしてくれというふうに言っていたので、小学生から高校生まで私は自分の名字で通っていました。小学校は、上のお兄ちゃんも下の弟も一緒なので、「何で一人だけ名字違うの」とか、変に気を遣われるのが、私の中でつらかったです。でも、ほとんどは楽しいことだったので、それはそんなに気にしていないです。

その後、小学校のすぐ近くの中学校に入学し、中学生からは結構環境が変わって、先生も厳しくて、勉強もつらいことが多かったのですが、実の娘さんが「進研ゼミやったらどう」と進めてくれて、始めてみるとすごく勉強が楽しくなりました。自分に合っていたみたいで、そこから成績がよくなって、勉強も楽しくやることができて、そのまま高校も推薦で受かりました。中学生も吹奏楽部で、また音楽に触れながら友達と楽しく過ごせたことはすごくいい思い出です。

高校に入学してからは、バイトを始め、小中学校のころとは違う子とかかわるようになって、環境の変化でいろいろつらいことが多くなりました。そのときにお母さんに相談したら、すごくポジティブな方なので、「何とかなるよ」という感じで、じゃあ何とかなるのかなというふうに思うことができました。やっぱり長く生きているだけあって、言うことがすごく、参考になるというか、頑張れるなというふうに思って、いつも助けられていました。

今日も来ているので、自分の気持ちを伝えるのは恥ずかしいことでもありますが、お母さんに気持ちを今までちゃんと伝えることができなかったので、うれしいです。高校を卒業後やりたいことがありましたが、周りの人が反対をしました。そのときにも最終的にはお母さんが応援してくれたので、すごく感謝しています。

最初はそんなに長く話せるかなと思いましたが、思い返すとつらいことも、うれしいこともあって、家族や、児相の方など、本当にいろんな方々がいたから私はこうやって生きてこられたのだなと思い、感謝の気持ちでいっぱいになります。里親さんを含め、家族と過ごした時間がとっても楽しかったです。たとえ血がつながってなくても一緒にいた時間が家族にさせてくれるのではないかなと思います。楽しいことばっかりではなかったし、時にはぶつかることもありましたが、それこそが家族であり、そんな時間こそが宝物だと思います。本日は、本当に、本当にありがとうございました。

5　家庭という基盤

【元里子】

自分は今、２５歳になりました。僕が生まれてからこれまでを紹介したいと思います。

生まれてすぐに乳児院に入り、その後、養護施設に行きました。いつも児童相談所の福祉司さんに、「お母さんを探してほしい、見つからなければ親になってくれる人を探してほしい」と頼んでいました。

小学校３年の夏休み、僕に面会があり、福祉司さんに、「お母さんになってくれる人を見つけたよ」と言われました。そして、そこにいたのが今の両親でした。僕は、施設の面会室のソファーの上でぴょんぴょんと跳ねて喜んだことをよく覚えています。いつお迎えにこようかという話になり、僕は「そのまま一緒に帰る」と言いました。それには驚いた母から、「準備してからお迎えに来るよ」と言われ、「それなら明日の朝６時半に来て」と頼みました。普通は交流というのがあってから里親さんの家に行くのですが、僕は特別に一度も家を見ることもなく、翌朝６時半に迎えに来てもらいました。

僕は知的障害があり、特別支援級に通っていましたので、バスで学校に通いました。地域の学校に支援級がなかったためです。近所の友達と遊びたくて、仲間に入りたくて、いじめられたりばかにされたりしたこともあります。悪いことに誘われ、ついていったこともあります。そんな僕を悪い仲間から離すために、母は和太鼓の練習に連れていきました。母が代表になって、障害のある人たちを中心にした太鼓チームをつくりました。初めはやる気もなく、だらだらと仕方なくやっていました。中学になると少しやる気が出ました。高等部に入るころには結構頑張り始めていました。高等部になると、いろいろなプロの舞台を見たり、自分でも舞台で演奏する機会もふえてきました。そんな積み重ねの中で、障害があってもプロで活躍する人の舞台に感動して自分もこんなふうになりたいと思いました。

高等部を卒業して選んだのは、長崎県雲仙市にある瑞宝太鼓でした。事前に見学や実習にも行きました。プロになりたいという夢のために頑張ろうと思って向かいましたが、現実は厳しいことがたくさんありました。瑞宝太鼓は仕事としての場所で、生活は寮のような施設のようなところでした。みんな九州の各地から集まってきて、いろいろな作業所などで働いていました。方言や生活習慣など戸惑うこともありました。何より、「里親とはもう関係ないんだから一人で頑張りなさい」と職員から言われ、面会に来る母からは、「いつ帰ってきてもいいよ」と言われ、どちらを信じてよいのかわからず苦しかったです。母は毎月のように面会に来ていました。里子の妹や弟たちも会いに来てくれました。

いろいろなことがあって、１年３カ月後、面会に来た母と一緒に帰ることになりました。１カ月ほどたち、母は「長崎に挨拶に行こう」と言いました。僕は行きたくなかったし、顔を合わせることも嫌でした。仕方なく長崎に向かいました。仲間たちは心配してくれて、温かい声をかけてくれました。まだ夢が実現してないんじゃないかという声もありました。この挨拶のおかげで、今でも瑞宝太鼓のメンバーとはとても親しく交流しています。これからも互いに刺激し合える仲間です。

太鼓はプロでなくてもできるし、どこででもできるので、太鼓を嫌いにならず続けていこうとの約

束をして、仕事を探すようになりました。ハローワークに通い、職業準備センターに通いました。が、１年近く仕事は見つかりませんでした。自分で決めて夢を持って向かったのにうまくいかなかった自分が、弱く、情けなく、挫折感でいっぱいになりました。そんな絶望の日々の中で現在の会社に出会いました。そして、それまでは里親であった両親の養子になりました。二十歳の誕生日のころです。そのころから少しずつ人生が明るく開き始めました。

僕を生んでくれた母には高等部を卒業する前に会いました。福祉司さんが何年もかけて捜してくれ、いつ会わせるのがよいかを考えてくれたそうです。その後、何度か会う機会もありましたし、僕の舞台に招待したこともありますが、最近は会えていません。昨年、体験発表しました。そのとき、赤ちゃんのころのことを知らないので、自分のアルバムの最初の写真にコメントを書いてくれた人に会いたいと思いました。母が乳児院に探してもらうように頼んでくれました。今も乳児院で働いている人だとわかり、初めて母とともに乳児院に行きました。すごく緊張しました。でも、面会室に入ると次々に僕のことを覚えている職員の方が来てくださり、赤ちゃんのころのエピソードを話してくれました。僕の人生の最初の写真にコメントを書いてくれた保育士さんにも会えました。「かわいかったよ」、「いつもにこにこしていたよ」、「別れるときは寂しかったよ」、などなど、たくさんのことを話してくれました。泣きそうになりました。「大きくなって会えてうれしい」なども言われました。そして、乳児院の中を案内してもらいました。ぐるりと回り玄関に出たのですが、一人でもう一度回ってきました。いつかここで子供たちに太鼓を見てほしいと思いました。

今、僕はビルクリーニングの仕事をしています。仕事以外に太鼓や社会人バスケも楽しんでいます。仕事をしていくことは嫌なこともあります。でも、よい仲間もでき、そのおかげで続けることができます。家に帰り、愚痴を話すこともあります。人間関係の大切さを母からいつも言われています。

太鼓で人に喜んでもらえることはうれしい、自分にもできることがある、励ますこと、役に立てることがあることはうれしいです。震災復興支援活動や高齢者や障害者施設などにも演奏に出かけます。これからもこのような活動を充実させていきたいと思います。

たくさんの人に出会い、支えられ、仲間としてともに生きることができ、とても幸せです。人は誰でも家庭という基盤が必要です。そこが安定していて、そこから外につながっていけると思います。土台になるのが家庭です。だから、家庭のない子供たちには里親家庭が絶対に必要だと思います。僕に家族ができ、自分の家という場所があるからこそ今の自分があると思います。これからも頑張っていきたいと思います。

６　一時保護預かりの里親として
～とまり木のような存在でありたい～

【里父】

私は、妻と１８歳の娘、２匹の猫と暮らしています。緊急保護された子を一晩ないし二晩、一時的に預かる活動をしています。こういう形の里親もあるということで、私が経験したこと、感じたことをお話しさせていただければと思います。

最初、私たちはフレンドホームという活動をしていました。やってみようと思ったきっかけは、娘の留学です。留学支援団体が費用の大半を出してくれ、留学させることができ、私も自分にできる形で社会のお手伝いができたらいいなと思いました。そんなときにフレンドホームを知って活動していたんですが、あるとき養護施設から児童相談所の方を紹介され、その方が里親の説明会やら研修やらいろいろ勧めてくるわけです。せっかくだから説明会に出てみようかとなり、話を聞いていくうちに里親というものに関心を持つようになりました。研修を通して、こういう状況の子がこんなにいるんだと、ここだけじゃなくてたくさんの施設で同じ状況の子供たちがいるんだと実感しまして、少しでも力になりたいと思って里親登録をしました。

フレンドホームの活動もしているので、一時預かりを希望しました。登録してから２年余りの間に５人の子を預かりました。実際はもっとありましたが、預かれない時期が何度かありまして、児童相談所にも伝えて了承してもらっていました。緊急保護の一時預かりの里親ですから児相からの要請も急に来ます。なので、所用があったり、こちらに余裕がないときはお断りすることもあります。

最初に預かったのが、小学６年生の女の子です。父親から虐待を受けていて、自分から児童相談所に駆け込んで保護された子でした。「どんな子なんだろう、警戒心が強くてとっつきにくい感じなんじゃないか」とかいろんな思いが駆けめぐったんですが、いざ対面してみると普通の子で、緊張しているのか少しおとなしい感じでした。ふと気がつくと夜中の１２時近くになるのにＤＶＤを見入っているんです。これはまずいと思って、「もう寝なさい。体によくないよ。」と言うと、ふだんからこういう生活だと言うんです。親が夜遅く風呂に入ってから、その子に入らせていたようで、それから寝ていたんです。本当に驚きましたが、これはよくないので寝るように言って部屋に行かせましたけども、ドアのすき間から明かりが漏れていました。後で妻から聞いたんですが、その子はこういう状況から抜け出したいと、ひそかにお小遣いをためていたそうです。１２歳の女の子が何でそこまで思いつめなきゃいけないんだと、いたたまれなくなりました。

２人目は、中学１年生の女の子です。この子も最初はおとなしかったのですが、数時間すると慣れてきたのか、どんどんしゃべるようになりました。でも、ふとその子が着ていた制服がたばこ臭いのに気がついたんです。まさか喫煙しているのかと思い、それとなくふだんの暮らしを聞いてみると、母親と食事するときは大抵外食で、居酒屋に連れていかれるんだそうです。道理で制服がたばこ臭いわけです。毎日そんなところで食事させられていたなんて、かわいそうだなと思いました。

３人目は、中学３年生の女の子です。母親から虐待を受けていて、自ら交番に駆け込んで保護され

たということでした。何かを読んでいるんで何だろうと思ったら、ノートを見ていました。勉強でもしているんでしょうか、高校受験もあるだろうし。こんな状況でまともに受験勉強ができるのかなと心配になりました。少しでも勉強をと、ノートを見ている彼女がけなげで、見ていてつらかったです。

４人目は、中学２年生の女の子です。家族から虐待を受けていたということでした。預かる際には児相の方が保護に至った経緯を説明してくれます。ですが、深く突っ込んでは聞かないし、ましてや本人に聞いたりはしませんし、本人もそういう話はしないので詳細はわかりません。この子は本当におとなしい子で、全然話さない。それでも、“嵐”が好きだそうで、娘が持っているＤＶＤを見せてあげたら体をちょっとゆすりながら歌っていました。少しはくつろいでくれたかなと、私も救われた気持ちになりました。

５人目が、高校１年生の女の子です。両親からの虐待です。学校の先生に相談して、先生が児童相談所に連れてきたということでした。明るいよく笑う子で、一緒にゲームをして楽しんでいました。翌朝、私と妻とその子で朝食を食べるときに、その子が「いいなぁ、３人で・・・」とつぶやいて動かなくなったんです。どうしたんだろうと思って見てみたら、泣いているんです。声をあげないで。こうやって家族で楽しく食卓を囲むということが少なくとも最近はなかったんだろうなと思って、こちらも悲しくなりました。

振り返ってみると、虐待の形も保護される状況もさまざまあるんだなと改めて思います。状況を説明するためにちょっと暗い話ばかりしましたが、そればかりではありません。預かった子を翌朝、児童相談所にお返しするんですが、送迎は基本的に児相の職員の方がしてくれます。私は家が近いのでその子たちを児相まで送り届けます。そのひとときが楽しいんです。一晩たつとどの子も打ち解けてくるというか、いろんな話をします。会話が弾んでいると楽しいんですけど、本当は家族とこういう会話がしたいだろうなと思うと悲しい気持ちもあります。

児童相談所で引き渡す際、私は「またね」と言いそうになってその言葉を飲み込むんです。「またね」があってはいけないんだと。それで「頑張ってね」と言い直すんですけど、彼女たちの行く末を考えるとたまらなくなります。社会的養護が必要な子供たちは、社会の子です。子供たちはこれからの社会にとってまさに宝です。その子たちが心豊かに暮らしていける制度や体制を整えるべきだと思います。「またね」は言ってはいけないと言いましたが、制度が整って健やかに心豊かに暮らしている彼らに会いたいし、会ったらぜひ「また会おうね」と言いたいです。

保護された子供たちは、想像もできないぐらいつらい経験をしてやって来ます。私は、彼らがほんの少しでも疲れた羽を休めることのできる、とまり木のような存在でありたいと思っています。そして、その子たちが、どんなつらくてもきっとどこかで誰かが見ていてくれる、だから頑張ろう、そういう思いを持ってくれればと願っています。

7　きょうだい（里子）との生活～実子の葛藤、私の気持ち

【実子】

私の家族は両親と高校３年生の弟、里子に小学４年生と３歳の男の子がいます。

私が小学校３年生の時に初めて里子が来ました。初めて里子が来た時は、どういう状況なのかよく理解出来ず、急に知らない男の子が家に来た、誰だろうと思いました。弟とは年子で１歳しか違わないけれど、行動が全然違ったり、自分が思っていた常識と全然違う行動をとったり、将来を不安に思うこともありました。当時小学３年生ながら、両親とはよく話し合いました。その里子はどうなっていくのか、将来はどうするのか…と思い、泣きながら両親と話しました。里子がいじめに遭うのではと考えるのが怖くもありました。思い返すと自分の弟として自然と受け入れられたのだと思います。

今高校３年生の弟は、あまり自分の感情を表に出さず、一緒に親と話している時も、殆ど意見を言いませんでした。里子と弟は年子で仲良く一緒に遊んでいた記憶があります。母は、子どもたち一人ひとりと、母子二人の時間をつくることに重点を置いていました。私は母と父と過ごした時間は長い方でしたが、弟は里子と年子で、比較すると母と過ごす時間は短かったため、母がそこは気遣っていたように思います。

その子は１年程で施設に戻ってしまいました。４人家族に戻った時に、普通の家庭に戻ったのかなと思う感覚がありました。里子がいる、いないで環境が大きく変わったと感じました。

私が小学６年生の時に、１歳の男の子が家に来ました。今小学４年生の弟（里子）です。赤ちゃんが来て、余り違和感なく自然と受け入れることが出来ました。しかし私は受験勉強があり、父は仕事が忙しく夜勤もあり、母一人で赤ちゃんを育てる感じがありました。母に疲労感も見え、助けたいという気持ちが自然と湧いていました。後から母と話した際、「あなたが動いてくれたから助かったよ」と言ってもらい、良かったなと思っています。

高校受験の時、里子がいるから受験勉強は出来ないと言い訳をしていました。自分の逃げとして使っていましたが、やはり他の家庭とは違う、里子がいるのは違うということが自分の中で不安というか、怖い部分がありました。今思うと最初のターニングポイントだったのかなと思います。

高校２年生の時、一番下の弟（里子）が１歳で来ました。受け入れは良好でしたが、年の差が離れていることがネックです。私は周りの人に養育家庭をやっていると自信を持って言えますが、実の弟は、周りに里親をやっている、里子がいるということを言えておらず、周りに言えていないことが弟にとって一番辛いように見えていました。しかし、最近一時保護の子が来たことで、上の里子が変わったと弟が話してきました。今まで意見を言わなかった、無関心だった弟が、一時保護の子が来て「弟（上の里子）が変わった」と着目出来ている。そこを言葉にしたことが、里親をやっていて、弟の性格を変えた大きなきっかけになって、私もとても嬉しいです。

ただやはり里親である両親は里子に目がいきやすいです。考え方も教育の仕方も。この歳になって理解は出来ますが、これが５年前とかになってくると、恐らく受け入れられなかったところはあると思っています。他の養育家庭さんはわからないですが、うちの場合はそういう差を感じてしまう部分

はありました。

弟たち（里子）は可愛い、けれど「なぜ里親をやっているのだろう？」と思ったことがあり、両親にもきちんと意見として言わせてもらいました。自分が里親の活動にも参加させていただいたり、複数の里子と一緒に遊んだりする中で、やっぱり可愛いし、子どもたちに罪はない。子どもたちが自分一人で生活していくことではできない。発達障害がある子もいる、そこで里親さんたちがリカバリーしていて育てていく中で、少しでも社会に出ていけるようにしていけるところがあって、とても必要なものだとは分かっています。それでも、なぜうちがやるのだろうと思うことはありました。

今作業療法士というリハビリの職種を目指しています。その仕事を目指すきっかけは、里子である弟に発達障害があり、リハビリの治療を受けていたことでした。障害児だから、ハンデがあるから社会に出られないということが、ほかの養育家庭さんの里子も見ていて心配です。１８歳になったら自立しなきゃいけないという制度がある中で、１８歳までにこの子たちに何ができるのか、一人で生きていくためには何ができるのか、そこをどうするかというのが、里親の力だと思っています。

社会に出て成功させてあげたいので、ハンデがあるから支援が必要じゃなく、生きていくにはみんな平等なのだから関係ないという世の中になってほしい。難しいと思いますが、一人で生きていけるように支援していくことがベストだと思います。育ちを支えたいと考える中作業療法士を目指していますが、一番のキーパーソンは里親さんだと思います。施設で暮らす子たちが社会で暮らし、１８歳で自立していけるように、私ももうすぐ社会人になる身として、協力していきたいです。

最後に、里親をやっていく中で、決定権は親になります。そこで里親が実子にどうフォローしていくか、親戚や近所の方々とどう協力していくか、母を見ていて里親同士の関係性や相談も大事になってきていると思っています。私が一緒に里親の活動に参加している中で、支部はグループが大きく、行事があったり、子どもたちがたくさんいる中で一緒に活動していくことが、非常にいいなと思っています。ぜひ立川の活動に入っていただければ、里子にとってもとてもいい経験になるなと思うので…。今後、自分ももし結婚をして子どもができても里親をやっていきたいなという気持ちはちょっとあります…。

もし子どもができた後に里親をやるとなった時、「俺もこういう経験しているから、おまえの気持ちはわかるよ」と自分の実子に言いたいと思っています。里子同士の交流はあるようですが、比べて実子同士の交流は殆どないため、そういう活動もできるよう、今後頑張っていきたいと思っています。

８　初めての子育て～７階まで笑顔で上る女の子～

【里母】

我が家は、先月５歳になったばかりの女の子と、夫と私の３人家族です。それともう一人、２歳の女の子と現在交流中です。

養育家庭のことを知ったのは、たまたまつけていたテレビで里親を特集していたのを見たからです。私たち夫婦は、２０代の半ばにはもう既に子どもを望めないことがわかっており、その後１０年ほど二人暮らしを続けてきました。そのほとんどは気楽で楽しいものではありましたが、もし子どもがいたらどんなふうに暮らしていたのだろうという思いは、時々ありました。なので、テレビを観たその日に夫に里親制度について話したことを覚えています。夫も興味を持って話を聞いてくれました。ですが、自分たちが子育てをしてみたいという考えで養育家庭になるのは、自分本位ではないか。人様の子どもを子育て経験がない我々が預かってきちんと育てられるのか。１年ほど話し合いました。けれど、答えは出ませんでした。ならば当たって砕けろ。だめだと言われたらあきらめがつく。そんな気持ちで児童相談所へ行きました。ですが、あれよあれよと講義を受け、実習をし、養育家庭に登録することができました。

その後、当時２歳だった、現在我が家にいる女の子を紹介されました。その子はとても警戒心の強い子でした。施設の職員さんの手を決して離さず、ふだん過ごしている部屋から出るのも一苦労でした。外にお散歩に出たくても、その前に部屋から施設の玄関まで行く練習が必要でした。もちろん手はつないでくれません。話しかけても下を向いてじっと黙っているだけ。「はい」も「いいえ」も言わないから、どうしてあげたらいいかもわからない。毎回交流後は、夫婦でああだこうだと反省会をしていました。

実子がいないこともあり、施設ではペアレントトレーニングを半年ほど受け、児童相談所でも子どもとの接し方についての講習を受けさせてもらい、地道に交流を重ねました。途中、身内の不幸もあり、３カ月ほど私は交流できなかったのですが、その間は夫が毎週末必ず施設に会いに行ってくれました。そして、その３カ月で私は顔を忘れられて、また手を繋いでもらうところからやり直しました。そして我が家に来るまで１年近く掛かりました。

この頃、私たち夫婦の間では、もう１年もこの子と接していたこともあり、何となく初めてのところに行くと固まってしまう大人しい女の子なんだなと思っていました。ただこちらの言うことは何でも頷くので、拒否をすることがなく、その点は自分を出せていないのかなと心配ではありました。我が家に外泊中のときも泣いて夜中に起きるということはなく、声をかければすぐ行動に移す、絵に描いたような良い子でした。

ところが、委託されてしばらく過ごすうちに、「あれ、この子は本当に大人しい？」と疑問に思うようになりました。気がつくと、昼間はほとんど外に出て遊んでいる。人が余りいない公園を好んで行くので、ブランコも乗ったら２時間は乗る。私はそれを動かす。雨で外に出られない日はソファーで逆立ちをしているか、テレビの歌に合わせて創作でダンスを踊る。お風呂も遊び場と化して２時間は

かかります。無理に上げようとすると、「まだ全然遊んでいない」と抗議されるので、気が済むまで入れていました。

また、委託されて間もなく幼児園にも通うようになりました。昼間はそこでたくさん遊び、帰りは近くの公園で一、二時間ほど遊びます。用事があって延長保育を頼み、５時に迎えに行ってもそこから公園。暗くなって街灯がついても、その下でブランコに乗り続けました。

家はマンションですが、彼女は階段を上ることを好みます。自宅は７階です。初めは息を切らせて上がってきましたが、次第に息切れもせず、笑顔で上がってきた時には着実に体力がついてきていると感じ、少し怖くもなりました。日々どれだけ体力を消耗させて寝かせるか、それしか考えていませんでした。

委託されて１年が過ぎた今は、以前ほどは外遊びもしません。お風呂は長く遊ぶことより、私たちと入って二、三十分で上がる毎日です。そのかわり、とてもおしゃべりになりました。あり余る体力が口に出てきているのではないかと、時々思います。

私たちや、顔見知りの人がいれば元気よく挨拶ができるし、初めて行くところでも固まりません。嫌なところは嫌と言えるし、人が喜ぶからという理由で行動する彼女には、教えられることがたくさんあります。

養育家庭の講習を受けている時に、とても記憶に残る言葉がありました。それは、「里親は実親と子の橋渡しである」という言葉です。正直言って、子どものことしか考えていなかった私にとって、くぎを刺されたような言葉でした。２歳から３歳くらいの子どもを預かれば、当然その子にとっての初めてにたくさん出会います。そんな時は、実親さんも子どもの様子を見たかっただろうなと、いつも思います。橋渡し役としてどんなことをしたらいいのだろう。これから養育家庭を続けていく中で、それを考えていきたいと思います。

９　家族で力を合わせて
～会えなくなっても、里子の幸せを願って～

【里母】

家族構成は、夫と私、実子が二人、高校１年と小学６年の男の子と９１歳の夫の母です。私たち夫婦が里親になろうと思ったのは、仕事の仲間内で里親をされている方が書かれた体験談をたまたま目にして、刺激を受けたのがきっかけです。里子さんとの生活の中で感じたことを赤裸々に書かれていて、とっても大変なんだけど、喜びも大きいよと、そんな風に言われているような気がして、できるかどうかわからないけど、私にもできるかもしれないと感じました。そんな中、実子を授かり、育児に明け暮れるドタバタな毎日が続いていましたが、そろそろ里親のことを考えなきゃ、と夫婦で話し合い、次男が幼稚園に行き出した頃に申請しましたが、様々な理由で５、６年越しに認定となり、里親登録となりました。お預かりした里子さんは、一時保護のお子さんばかりです。小学３年の男の子を１カ月、２歳８カ月の男の子を１０日間、そして先日一時保護から長期の委託になった高校２年の男の子の３人です。まだまだ経験は浅いですが、その中で感じていることは、一時保護の場合、突然児相からお願いの電話がきます。しかも今日の夕方からお願いできないかと言われます。でもできるだけ断らずに、受けようという夫婦の思いがあり、その子が来るまでのわずか数時間で心の準備と布団を用意する等して体制を整えています。里子さんとのお別れの日も、状況によりそれぞれですが、ようやく我が家に慣れてきた頃にお別れ、という現実があります。もう少し預かっていたいという気持ちもありますが、それは仕方がないことだという風にも思います。それが里親としてできることの限界なのかなと。一人目の小３の里子ちゃんは、家庭に帰ることが決定したので、それは一番いい形ですよね。だから「元気でいるんだよ」とお互いにお別れができましたが、２歳の里子ちゃんの時は、まだ幼かったこともあり、「ばいばい」とは言わずに、電車が好きな子だったので、「電車を見に行っておいで」「いってらっしゃい」と見送って別れました。もう何ともやりきれない思いでした。情が移っていますから、その別れの日はちょっと辛かったですね。一時保護の場合、我が家を卒業していった後の里子ちゃんたちとは交流はできないので、本当に複雑な心境ですけど、これが先程も言ったように限界なんだなと。でもこうなった以上は、その子のこれからの幸せを祈ってあげるしかないのかなと感じています。

それともう一つ感じていることは、実子の存在がとても有難いということ。やはり大人だけの中に一人でぽつんと来るよりは、子供同士の関わりがあった方が、里子ちゃんも嬉しいんですね。認定まで数年かかったと話しましたが、よく考えてみたら、実子が今の年齢になっているから、色々なことを理解してくれているんです。わかってくれる年齢になったちょうどいい時に、認定になったと感じています。実子たちも里子ちゃんを可愛がってくれますが、そうは言っても、喧嘩もすれば、楽しそうにしていることもあります。特に次男は、今まで自分が家族の中でも一番年下で、兄という立場になったことがないのです。年下の子と一緒に生活するというのは、今までないわけなので、「お前年下のくせに生意気だ」と泣きながら喧嘩していることもありました。私は「確かに生意気かもしれない

ね。でも、もしあなたがある日突然、大人の事情で知らない人の家に連れて行かれて、そこで生活しなきゃならなくなったらどう？」「あなたも少しはお兄ちゃんの気持ちがわかったでしょ」と次男を慰めてみました。次男は何となくわかってくれたような感じでした。数日後のある時、長男のことを「お兄ちゃんって優しかったんだな」としみじみ言っていました。これは間違いなく里子ちゃんたちとの生活が感じさせてくれたことだと思います。小３の男の子を預かった時のことですが、夫がゲームの貸し借りで喧嘩になった里子ちゃんをかばって次男を叱ったことがありました。普段叱る人ではない夫です。次男は普段優しい父親から、怒り口調で自分の方が叱られたことが納得いかなかったのでしょう。後で私に「俺もうこんな感じじゃ嫌だよ。あんなの俺の好きなお父さんじゃないよ。」と言ってきたので、夫と次男と三人で話し合う時間を持ちました。次男は「お父さんは、何かと里子ちゃんの味方ばっかりするじゃないか」などと気持ちを話しました。これには夫もこたえたようでした。夫としてみれば親と一緒に生活できないことほど可哀想なことはない、せめてうちにいる間だけは里子ちゃんに精一杯愛情をかけてあげようと思っていたに違いないのですが、不器用だったのだと思います。次男の真剣な思いを聞いて、少し考えが変わったのだと思います。それでも、依然として私は怒り役で怖い存在、夫は優しくて良い逃げ場となってくれて、家庭の中では、良いバランスがとれているのではないかと思っています。

現在、約４カ月前から高２の男の子をお預かりしています。独特の特性がある、とっても個性的なお子さんです。いわゆる私たちが考える普通の生活をしていなかったようで、本当に驚かされることばかりです。家の中を平気でパンツ１枚で歩いたり、洗濯物を出せなかったり、ゴミをゴミ箱に入れられなかったり。毎日私が言うのですが、彼には響きません。言うのも疲れちゃうので、言うのをやめようかなと思ったりしながら、でも言わないとわからないだろうなと思ったりして、そんな毎日です。自分の興味のあることは一生懸命やるんですけど、その他のことはあまり響かないので、根比べです。少しずつ、少しずつ変わってきてくれているかなという気はしています。これまでの生活環境もありますし、彼だって悪気があってやっているわけじゃないと、こちらも自問自答しながらの毎日です。そうこうしながら一緒に生活していますが、一緒に生活している以上は、色んなことが起きてきますし、色んなことが出てきます。その子の良い面、そうでない面の方が多いかもしれませんが、全部出てきます。それをどう受け入れていくのかが、今後のこちらの課題なのかなと。こちらの勉強なのかなと思っています。

里子ちゃんとの生活を通して、私たち夫婦と息子たちと一緒に、我々家族が成長していけたらと思っています。夫の母がまた良い役割を果たしてくれて、里子ちゃんにも、こちらにも、ふっと優しい言葉をかけてくれるんです。「里子さんで苦労していれば、我が子で苦労しないで済むよ」と。今後も環境の続く限りは、関係機関の皆様のアドバイスを頂きながら、家族で力を合わせてこの活動を続けていけたらなと思っています。

１０　寄り添いながら、積み重ねながら
～７年間を振り返って～

【里母】

夫と私、そして現在８歳の男の子との家族三人の生活についてお話します。この７年間、色々大変なこともありましたが、沢山の方々の支援を受けここまで来たと感じています。結婚後、夫婦二人で仕事以外はのんびりした生活を送っていました。不妊治療も受けたのち、子育てを諦め、子供を支援するボランティア等にも参加しましたが、何となく割り切れない気持ちが続いていました。そんな時、夫と知り合ったばかりの頃、私から唐突に「血縁のない子供を育ててみたい」と話したことを思い出しました。当時の夫は驚いた表情でしたが、再び話をすると、私を応援したいと、最終的には夫の家族も説得してくれました。私は最初に夫に話した時から里親になることを決めていたような気がします。

里親登録してから間もなく、乳児院で生活している１歳の男の子の紹介がありました。初めて夫婦で会いに行った日、乳児院内で感染症が流行っていて、残念ながら窓越しの対面でした。当時の彼は１２キロ近くあり丸々と太っていて、色は真っ白、ほっぺたが真ん丸と赤く、とっても可愛いかったです。私たちの姿を見て、嬉しそうに笑顔で両手を上げていたことを思い出します。彼との交流は約３カ月。フルタイムで働いていたので、頻度は週に１、２回程度。交流中、初めて二人きりで過ごした時、乳児院の職員がその場を離れると、火がついたように泣いてドアに張りついて、まるで「助けて」と言っているように後追いし、胸が締めつけられる思いでした。私も不安で心の中で泣いていましたが、ここで私が引いてはだめと、無我夢中で抱きしめ、「怖いね、不安だね」と必死に言葉をかけた覚えがあります。その時の抱っこは、忘れられません。

受託後、私は退職して子育てに全力を注ぎました。慣れない家事や育児をこなしていく毎日。夫が休日の時は、夫婦で交代しながら抱っこやおんぶをして遊びました。彼の行動一つ一つが可愛くて仕方がないという感じでした。初めて「ママ」と呼ばれた時の気恥ずかしさは今でも忘れられません。当初、地域の児童館で親子プログラムに参加した際、「みんなママのところへ行ってね」との職員の呼びかけにも、彼だけ私のところに来ないようなところがあり、少しショックを受けました。外で自然に「ママ」と求めるようになったのは、受託後１年程たった頃だったと思います。

受託後８カ月は、専業主婦となり、日中は彼と二人の生活。私は疲れ切ってしまいました。どんなダイエットをしても痩せない体重があっという間に７キロ減り、仕事をしている方が私らしくいられるのではと考えました。保育園入園が決まり、乳児院での集団生活に慣れていた彼は、慣らし保育も難なくクリア。ですが自宅では、様々な行動が見られました。とにかく私の言うことにはほとんど反抗。相撲を永遠にとり続ける、寝る前の絵本は３冊以上読まないとだめ等、抱っこを求め、時には道路で寝転がることも。そのような行動を改めようとすると、ものすごい勢いで大泣きしてかんしゃく。私が我慢すれば、時期がくれば落ちつく日が来る、と思っていましたが、その考えを修正しなければならないことに気が付いたのは、後になってからです。年長頃から、保育園でも不安定な行動が目立

ち始めました。彼の行動には理由がある。彼の良い面を一番知っている私は、決して乱暴者ではない、と誤解されたくない気持ちでいっぱいでした。

小学校に入ると、新しい環境に慣れることに時間がかかり、登校を渋ることも何度かありました。なだめて登校させることもありましたが、無理をさせてしまったと落ち込むことも。時には夫婦のどちらかが仕事を休み、彼と過ごすこともありました。“大事な時期だから”と職場も協力してくれました。学校でも感情をコントロールできない等ありましたが、担任に彼の状況を言葉を尽くして話しました。理解を示してくれ、とても救われた気持ちになりました。ある時彼に「ママは僕の話を聞いてくれない。僕はママとパパの話だけ聞いていればいいんでしょ」と言われました。この言葉は私が彼への接し方を改めるきっかけとなりました。その後、里親研修にも時間の許す限り参加し知識をつけたり、里親の先輩からアドバイスをもらったりしました。クリスマス会等の里親子の集まりには、親子で参加するようにしています。彼に、あなたには仲間がいる、自分だけではないよ、と感じてもらいたいからです。研修の効果もすぐに感じられ、彼の表情が日に日に明るくなり、怒りの程度が低くなり、夫と二人で驚きました。彼の変化を見ていて、褒めるということは、まるで彼の誕生を祝っているみたいだと感じるようになりました。

真実告知について、私たち夫婦は、生い立ちを受けとめることはとても重要なことだと考えています。彼に自分の生い立ちに正直に向き合ってほしいと感じ、彼の名字は迷わず実母さんの姓を選びました。今後、何か不都合があればその時に考えればいいと思ったからです。地域にオープンにして生活するデメリットは今のところありません。彼が小学校に上がる前から、マンションのエントランスの表札は私たちと彼の二つの姓を表記しています。彼に産んでくれたお母さんがいることを初めて話したのは、２歳頃です。私と二人でお風呂に入っている時でした。ずっとお家で過ごそうね、等と話しました。彼が腑に落ちたようなすっきりした嬉しそうな表情になったことを覚えています。以降、時折「僕の名前は誰がつけたの」等質問してくるようになり、質問には正直に答えました。実親さん家族を美化するようなことを話すこともありましたが、否定せずに見守りました。今年の夏には、担当の児童福祉司が、彼が我が家で生活することになった経緯を、彼によくわかるように、イラスト入りのファイルを使って説明してくれました。説明を聞きに行くことが決まった時、彼から「産んでくれたお母さんに会えるのか」と聞かれました。「会いたい？」と聞くと「会いたい」と。私は彼が素直な気持ちを話してくれてとても嬉しかったです。そして、この気持ちを大切にしたいと考えています。そういえばいつの間にか、実親さん家族を美化するような言葉はなくなっていました。

そして今年は、大きく成長した年でもありました。学校でも楽しく過ごせており、自ら希望して公文にも通い始めました。今ももちろん親子喧嘩はありますが、そんな時は「私はあなたを育てることに決めているから」と私なりの不器用な愛情表現で何度も伝えています。彼には、自分を大切にして自分の望んだ人生を歩んでほしい。そしてこれからも彼の気持ちに寄り添えるように、私も学び続けて彼を応援したいと思います。

１１　４人家族が５人家族になるまで

【里母】

１８歳で上京し、大学を終え、そのまま東京で就職。そこで出会った夫と結婚し、長男と次男を産みました。４人家族になって落ちついた頃、夫が「里親にならないか」と言い始めました。私はそんなに包容力のある人間ではないと自覚がありましたので、断りました。でも夫は「うちのメンツならできるよ」と言い続けました。何年も言われると「誰かと深くかかわり続ける人生もいいかもしれない」と思い始めました。長男が中学１年生、次男が年中の頃でした。子供たちには、「いろいろな理由で、お母さんやお父さんと暮らせない子供たちがいる」と話しました。そして研修を受け、登録しました。

半年くらいで２歳のAちゃんの紹介がありました。次男は、Aちゃんがやってくることをとても楽しみにしていました。長男は、話が具体的に進むにつれて、「知らない子がうちに来るのか」と、あまりよくない感触になりました。その様子に、お子さんを預かるのは難しいかもしれないと思いながらも、交流は進んでいきました。

初めて我が家にAちゃんがやってきたとき、次男は、窓からAちゃんと私の姿が見えるのを待っていて、走って迎えに来ました。膝をついてAちゃんの顔をのぞき込み、名前を呼んで手をつなぎ、一緒に家まで歩きました。長男の反応は一番の心配事でしたが、やっと家に入ったAちゃんに、そっと近づき、名前を呼び、頭をなで、笑顔を見せました。その姿を見て「きっと大丈夫」と思いました。そして、長男が中学３年生、次男が小学校１年生になる１月に長期外泊が始まりました。長男は、基本的にAちゃんにとても優しいです。委託後に見せるようになったAちゃんのさまざまな姿を、ずっと継続して受け入れています。次男とAちゃんは年齢が近く、二人の関係には長男とは違った難しさがあります。初めの頃、Aちゃんは次男を叩いたり、踏んだり、嫌なことをたくさんしました。次男は戸惑い、泣いたり怒ったりしていました。でも、逢う人には「僕の妹」と嬉しそうに紹介していました。今、Aちゃんが本当に困っているとき、次男はAちゃんの味方をします。子供は、今を生きていて、直前までのことは済んだことで、人を許すことができるのだと感じます。

それでは、Aちゃんのことをお話しします。交流中は、大きな問題なくそのまま委託になりましたが、すぐにAちゃんは、さまざまな姿を見せるようになりました。その姿に「楽しいこともつまらなくしてしまう」「人と心地よい関係でいることや、幸せになることを自ら手放している」「かわいがってもらうことをわざと放棄している」としか思えないと感じました。愛着に関するハンディの大きさを感じました。だんだん私は怒ることが増え、同時にAちゃんを受け入れられない自分自身へもいらだっていきました。

そんな暮らしでしたが、Aちゃんは少しずつ変わっていきました。我が家に来た当初は、寝ていても体を細かく震わせながら、泣いたり叫んだり。寝ている時でさえ緊張が取れないのだなと、私は小さな体をさすりました。でも、４カ月くらい経つと、穏やかな夢を見ているような寝言が聞かれ、寝ながら笑うこともありました。５月の連休が明けた頃には、赤ちゃんのように、おなかを突き出して

ペタペタと歩き出しました。それから３カ月くらい、ハイハイをし、つかまり立ちをし、「あんよが上手」と囃すと、嬉しそうにばぶばぶ歩いていました。Ａちゃんなりの赤ちゃんのやり直しだったのでしょう。

この激動の期間も、それ以降も、周りの方々にたくさん助けていただきました。毎月訪問してくださった支援機関の里親委託等推進員の方には、たくさん話を聞いてもらいました。近所の友人は、仕事終わりによく家に寄ってくれました。夜はみんな疲れていて、膠着状態に陥ることがあり、そんなときの救世主でした。もちろん里親の皆さんとの交流も得ました。Ａちゃんが我が家に来たことでたくさんの出会いがありました。

委託から１年経ち、児童相談所の方の訪問がありました。そのときのＡちゃんと私たち夫婦の感じを察して、心理の方が「面談に来ませんか」と誘ってくださいました。その後、１年くらいほぼ毎月、今も数カ月に一度、心理の方のところへＡちゃんと二人で訪ねています。この面談の日だけは、家に帰るまでＡちゃんとよい関係でいるために、ただ楽しい時間を過ごそうと決めています。こうしたことの積み重ねで、苦手だった、Ａちゃんと一緒にスーパーに行くことや、電車に乗ることが何でもないことになりました。

私が仕事を再開した１０月からは、Ａちゃんは保育園に通っています。赤ちゃんから大人まで、いろんな人のいる大家族のような保育園の中で、Ａちゃんはのびのび気持ちを主張しながら、人との関わりと生きる力をゆっくり培っているように思います。この保育園は、卒園後もずっと、Ａちゃんの大切な居場所になっていくことでしょう。

Ａちゃんとの暮らしも、もうすぐ３年です。Ａちゃんは成長し、普通の振る舞いが増え、人に優しいことを言えるようになり、表情もかわいくなりました。大変だった私たちの暮らしも、少しずつ変わってきました。３年かかって、Ａちゃんと一緒の暮らしを、もっと楽しんでいければと、やっと思えるようになりました。

言い出しっぺの夫はＡちゃんのよき理解者です。夫は初めの頃「Ａちゃんのことで周囲に迷惑をかけるようなことがあっても、許してもらおう」と言っていましたが、私は、「事情を知らない周りの人たちに、公共の場で迷惑をかけるようなことはしてはいけない」と思いました。でも、今は、迷惑をかけることもある幼い子供の姿を社会が包み込めたら、それはとてもすばらしいことだと思います。

里子が、ガッツがあって諦めないＡちゃんだったからこそ、ここまでお互いに頑張ってこられたのかもしれません。今後、小学校に上がり、世界が広がったときや、思春期の頃には、また大変さもあることでしょう。実親さんのもとへ帰ることだってあるかもしれません。でも、暮らしが当たり前に連続していくように、少しでも長く一緒に、楽しく暮らしていきたいと願っています。

１２　１２年間の里子との日々
～乳児院での交流から高校生の現在まで～

【里母】

現在、うちに来て約１２年半の高校１年生の女の子Ａちゃんと夫と私の３人家族です。養育家庭制度を知り、子供がいなかったので気になりましたが、そのまま何年かたち、体験発表会に参加し、すぐに手続を進めました。登録後は子供の連絡を一日千秋の思いで待ちました。ようやく、３歳の女の子がいるとの連絡があり、乳児院を訪問しました。

初めて会ったときかわいいと思いました。しかし話しかけても下を向いて地面に手をつき、固まっていました。交流中は、ほとんど毎日通いました。Ａちゃんは私を見ると大泣きするのですが、私が帰るときになって、「また来てねー」といつも言うのです。

交流を重ねていくうちに、何とか２人で遊ぶようになりました。私が帰るときには「いやー」と泣いてくれるようにもなり、前進したと喜んで帰っても、また翌日には嫌がって大泣き、大暴れです。毎回必死で色々やってみました。そんな中で、心理療法士さんに、「A ちゃんは今までの生い立ちから、親しくなって心を許しても、後で自分が傷つくということを学んでいます。態度はああでも、実はもうかなり信頼していると思います。」と言われ、気持ちが楽になりました。うちに来るときには、すっかり私たちに慣れていて、お散歩にでも出かけるように自然に施設を出て、「着いたー」と言って当たり前のように、家に上がって生活が始まりました。家での生活は、親の方が初めは大変でした。何をするにも以前より何倍も時間がかかって、家事が捗らず家の中はどんどん汚くなり、理想と現実の違いを実感しました。

年少の終わりごろ、うちにあるひな人形を「Ａが生まれたときに買ってきたんでしょ」と聞くので、「Ａは違うお母さんから生まれたんだよ」と言いましたが、まだ意味がよく理解できていなかったようでした。ただ「違うお母さんから生まれた」という言葉はインプットされたようで、周りの人に話したり、一人で電話ごっこをしながら「もしもし、あっ、違うお母さん。」と話していました。産んでくれた「違うお母さん」に対して、私のことは「普通のお母さん」「本当のお母さん」と言ってくれて複雑な気持ちでした。その後、「ふうこちゃんの誕生日」という絵本の影響で、産んでくれたお母さんのことを本当のお母さんと言うように変わりました。A は幼稚園から小中高と、通称名ではなく実名で通っています。毎年、年度初めの保護者会で養育家庭だと話しています。学校に提出する書類が里親の苗字なので、友達から聞かれることが時々あったそうで、説明するのが面倒くさいと言っていましたが、深刻に悩んだり困ったりはないように思います。

小２の時、生い立ちを振り返る授業があります。心配だった産まれたころのことも、乳児院のアルバムから、自分で写真を選んで冊子に貼り、母子手帳を見て誕生時の体重と身長を記入しました。「名前をつけた人」とには「多分お母さん」と書き提出しました。

小４でも、２分の１成人式という授業があります。保護者も見学して、１人ずつスピーチをするというすてきな会でした。後日、感想文に「こんないっぱいの人が来るとは思っていなかったけど、いっぱいの人がみんなを心配しているんだなと思いました。私の番が終わった後、泣いている人がいっ

ぱいいて、私も泣きそうになりました。お母さんは私が見ていないところで、いつも私を心配していると思います。私は絶対お母さんの手伝いをいっぱいして、心配をかけないようにします。最後のベストフレンドで泣いてしまったけど、それは家族に感謝の気持ちでいっぱいだったからです。だから、家族を大切にしていきます。」と書いてありました。「そうよ、そうよ」と思いましたが、後になって「お母さん」は「本当のお母さん」のことだと聞きました。確かに本当のお母さんも心配していると思います。このまま、真っすぐ成長してくれたらと思いました。

小６の時、健康診断で脊柱側彎の疑いがり、コルセットをつけることになりました。成長がとまるまで入浴と運動時以外は２４時間つけっ放しということでしたが、一人では装着できないので、だんだん外して登校するようになり、昼間は全くしなくなってしまいました。定期受診で、背骨の曲がりぐあいは特に変わりなく現在まで来ています。

動物のテレビ番組が好きで、「飼育員になりたい」と言い始めました。動物と触れ合えるテーマパークへも、毎年旅行し楽しんでいます。しかし仕事となると本当に世話ができるのかわからないので、猫を１匹飼い始めました。できるときは自分でお世話する約束で買ってきたのですが、週末にやるはずのトイレシートの交換を、自らやったことは今までに一度もありません。方向転換をするのなら早い方がいいとは思っているのですが、高校の先生との面談でも、飼育員を目指す方向で話をしているようです。

去年の１２月、私は病気で入院をしました。当初は退院の目途が立たず、絶望的な気持ちでした。もし長引いてしまった場合、里父との暮らしが持続できるものか、養育環境が不適切と判断され、よそに移されるかもしれないと思いました。高校受験目前に、何て事をしたんだ、自分の健康管理の甘さが悔やまれました。夫は「子供の精神状態が不安定になるようなことを今伝えなくてもよい」と言っていたのですが、私はもしそうなった場合に備えて、そのあたりの話をしました。ところが夫が学校の先生から「母親の入院と受験で不安になっているところ、さらに追い打ちがかかり、心のキャパを超えてしまっているようです」と言われたと聞き、申し訳ない思いでいっぱいでした。

入院の間、Aは本当によくやってくれました。朝、自分で起きて、みそ汁を作り、猫にエサをやって、ごみ出しをして登校。夜は洗濯をして、学校のブラウスにアイロンをかけ、買い物に行き、炒め物などの簡単な夕食も作りました。とても助かりました。私はたくさんの方々のおかげで１２月末に無事に退院できました。

初詣は一緒に合格祈願をしてきました。本人の頑張りと塾や学校の先生や天神様のおかげで、志望校に合格できほっとしました。入学準備をしたり、入学後は毎日弁当を作ってあげることができてよかったです。高校では、バドミントン部に入りました。緩い部活で気楽にやっています。このまま、少なくともあと数年は、Aがほぼ自立できるまでは、何とか元気でいたいと思っています。養育家庭の認知が広がり、お仲間が増えてくれたらうれしく思います。そして、虐待のニュースを聞くことのない世の中になりますように、と願います。

１３　養育家庭という家族

【里母】

現在、１５歳の男の子の里親をしています。家族は、イギリス人の主人と私、そしてこの男の子の３人です。里親になろうと思った経緯は、以前ベトナムに住んでいた時に、貧困から汚れて破れた服を着て、物乞いをせざるを得ない多くの子供たちの存在を知ったからでしょうか。１人でも私たちが育てられたら、十分な食事を与え、安心して学校に行かせることができるのではないかと思いました。また、２０１１年の東日本大震災の時はイギリス在住でしたが、多くの震災孤児が出ているとのニュースがあり、自分たちにできることはないかと考えました。調べていくうちに、日本に移住する際には養育家庭になれるかもしれないと思い、帰国後、研修、実習を受け、登録しました。

初めての里子は、短期委託の高校生でした。部活を今の生きがいとし、お行儀もよく、頭のいい女の子でした。私たちはイギリスで、留学生を受け入れていたので、３人での生活はスムーズに始まり、楽しく過ごしました。

その後も、長期であれば女の子を希望していたので、当時中１だった今の里子を紹介されたときは、一旦お断りしました。しかし、私たちには実子がいないので、女の子でも男の子でも大変さは同じかなと夫婦で思い直し、その男の子と交流を始めました。

初めて施設で面会した時、自ら面会室から出てきて挨拶をし、着席後も恥ずかしそうに、でも丁寧に言葉を探して受け答えする姿に、好印象を持ちました。交流当初から、すっと私になじんでくれて、私もまるで甥っ子と一緒に時間を過ごしているようでした。一方で、不満をこぼしたり、「どうせ俺なんか」と言ってみたり、拗ねたり怒ったりすることもありました。数回の交流後、委託が決まり、うちに引っ越してきました。思春期あるあるで、日常生活の普通のこと、例えば、朝晩歯を磨く、入浴後はお風呂のふたをする、下着を毎日替える、食事の前にトイレを済ませる、なるべく音を立てないで食べる、部屋の片づけ、宿題をするなどが全て面倒くさく、私の視線がうとましいようでした。その頃は、週に何度もふて腐れ、拗ねて部屋に閉じこもることがありました。私はもう好きにすればと思っていたのですが、主人は諦めず、部屋から引っ張り出して、３人で話し合う場を持たせました。里子の沈黙がすごく長いので、１つの小さな事柄に対しても、今後どうしていくかについて話すのに３日４日かかるのはざらでした。

その反面、赤ちゃん返りなのか、学校から帰ると機関銃のようにしゃべりまくり、ソファーの上でジャンプをしながら話しかけてくることもありました。かといって、私からの質問には全く答えず、一方的に私について回ってしゃべっていました。私がスーパーに行って帰ってくると、エレベーターの前ではだしで立っていたこともありました。驚かせようと思ったのでしょうが、ベランダからずっと覗いて待っていたようでした。その頃は一人で家に３０分もいると、「寂しかった」「怖かった」と言っていました。

子供を養育していく上では、普通にあることなのかもしれませんが、養育家庭としての親子関係ができる前の、赤ちゃん返りと思春期あるあるの試行錯誤の日々で、数カ月が過ぎると、私も主人もこの里子のことを、正直嫌いになったような気がしてきました。それで私は、里親担当の福祉司さんに、

長期ではなくて１年間の受託として委託解除をお願いしたいと伝えました。数日後、里親担当の福祉司さん、子供担当の福祉司さん、心理司さんが自宅に来て、私の話を詳しく聞いてくださいました。そして、当面、２週間に１回は児童相談所で心理司さんが里子のカウンセリングの場を持つことになりました。カウンセリングの中で、里子は「うちにいたい」と言っているようでした。ただ、いつも自分が悪いと言われることに納得いかないとも思っていたようでした。見方を変えると、実母さんが急死されなければ、思春期真っただ中で生活を一変させることなく、健やかに成長していたのではないかと、出会ったばかりの私たちに、日々注意されることもなかっただろうにと、嫌悪感が同情に変わるときもありました。

その年の夏休みの過ごし方を考えていたとき、迷いに迷ったあげく、最後のいい思い出作りになるのではないかと、里子をイギリス旅行に連れて行くことにしました。しかし、旅行中は生活面の指摘をする必要がなく、一緒に観光したり、主人の親戚と会って食事をしたり、想像以上に楽しく過ごせました。旅行中、笑顔の多かった里子を見ていると、もう少し、まずは、中学卒業までをめどに頑張ってみようかな、と思いました。

里子も、旅行後は拗ねて部屋に閉じこもることがなくなりました。恐らく、私たちとの新しい家族を意識し始めたのだと思います。ある日、私に対して「もうわかったんだよ」と言ったことがありました。以前の自分自身を振り返る余裕も見せました。この頃から、私と里子の会話はキャッチボールができるようになっていました。

里子は思ったことをすぐ口にするタイプです。うちに来た当初、「おばあちゃんに会いたい」とよく言っていました。おばあちゃんとの外出が定期的にできるようになると、今度は亡くなったお母さんのことを話し出しました。そして、少し前に話し出したのが、５歳で生き別れた父親のことです。「全く覚えていない」と言っていますが、気になってきたのでしょう。

最近は、私に対して「親でもないくせに」とか「家族でもないくせに」とか、ニヤニヤしながら、どう返してくるかを試しています。養育家庭の重要なテーマだと思い、里子にはこう伝えました。「私たちは養育家庭という家族だから」「世の中にはいろんな家族の形があるから」「血のつながりだけをもって家族と言うなら、夫婦は家族じゃないし、家族は他人との共同生活から始まっているじゃない」と。里子は素直に「うん」と言って話は終わりましたが、彼はこれらの言葉で、それなりに理解したと思っています。

この子の里親を１年でギブアップしそうになりましたが、今では自立後の心配までしています。育児経験がなかった私たちですが、里親応援チームの皆さんや、先輩里親さんからアドバイスを頂いたり、愚痴を聞いてもらったりしながら、ここまで養育することができました。これから高校生になって、本気の反抗期が来るかもしれません。そのときはまた相談させていただきながら、１８歳の措置解除まで、養育家庭という家族として、一緒に日々を紡いでいけたらと思っています。

１４　子供と一緒に暮らし、成長を見守れる幸せを感じて

【里母】

子供が欲しいと思ったのは私の弟に子供が生まれたときでした。私は４０代になって不妊治療をしました。仕事もかなり縮小して治療に取り組みましたが成果は出ず、治療継続は難しいと思っていました。それでも、どうしても子供と一緒に暮らしたいという思いが強く、最初は里親について知らなかったので特別養子縁組のほうを考え、いろいろ調べました。でも、時間をかけ登録してもかなりの方が待っていると知りました。さらに調べるうちに養育家庭というのがあって社会的養護の必要な子供がたくさんいると知りました。養育家庭になるのもいいのではないかと、徐々に考え始めました。

その後認定に至り、子供が来るまでしばらく待つかと覚悟していましたが、タイミングがよかったのか幸いにすぐお話があり、もうすぐ３歳のＡちゃんを紹介されました。

Ａちゃんはすごく明るく活発な一方、繊細な部分を持っている女の子です。週に３、４回、３か月以上乳児院に通いましたが、不妊治療に比べれば全然足取り軽く、苦にはなりませんでした。ただＡちゃんは担当の保育士であるＢさんにはよく抱っこされていましたが、私達には一緒に遊んだりしても「抱っこ」とほとんど言いませんでした。子供ながらに警戒していたところもあったようで、ある時「ＡちゃんにはＢさん、Ｃ君にはＤさんがいるからね」みたいに宣言されたのです。私達の仲を裂かないでと言わんばかりで保育士さんとの愛着関係がしっかり築けているのだなと感じたので、「あ、そうなんだね」「私もＢさん大好きだよ」と伝えたら、Ａちゃんはすごくびっくりした顔と、ほっとしたような、まだ２歳の子がこんな複雑な表情をするのかという顔を見せてくれたのです。その後、より仲よくなったのですが、夫が後でぽつりと「Ａちゃんそういえば、最初は部屋の隅を陣取って余り背中を見せなかったよね」と言ったのです。やはりＡちゃんは警戒していたのだなと後で思いました。

長期外泊になってママチャリを買って乗せたとき、また、本委託が決まって住民票異動のため区役所を訪れたときに、本当にこれから子供の命を預かって一緒に暮らすのだなという緊張とわくわくした思いがあったのを今でも覚えています。

一緒に暮らしてみて幾つか誤算もありました。乳児院でしていた昼寝を全然しないので雑用する時間がないのです。お風呂の適温も子供と違うので冬は私が寒くて震えていました。夜は、緊張もあったのか些細な物音で私もＡちゃんも起きてしまい寝不足でした。小さな子との３人暮らしは思った以上に大変で、息の抜き方がわかりません。親子ってどう時間を過ごすのかわからなくて、児童館や公園を巡って過ごしました。私と夫はマラソンが趣味で体力的には大丈夫と思っていたのですが、Ａちゃんは元気いっぱいで、こんなに子供と遊ぶのは大変なんだと身をもって知りました。気持ちは「これから３人暮らし」でも、体が何か、元に戻ろう、２人暮らしに戻ろうとするような感覚がありました。困って児童相談所や乳児院、専門職の方々に話を聴いてもらったり相談したりしました。「気恥ずかしいかもしれないけど、『Ａちゃん大好き』と言って抱きしめてあげてくださいね」と言われて、そういうことをきちんと伝えていないなと気づいたりもしました。

一緒に暮らし始めて２か月程過ぎたらようやく、ふっと楽になって、２４時間一緒にいても気を張

らなくて過ごせるようになるんだなとわかってきました。時間が解決するってこういうことなんだなとしみじみ感じました。最初はAちゃんも慎重で、私達の前でいい子でいようと思っていたようなのです。何でも好き嫌いなく食べていましたが、だんだん好き嫌いを見せるようになってきました。何でも食べられたほうがいいけれど、本来の自分を見せてくれたという面ではよかったのかなと思っています。新たな環境に慣れたのか、児童館や公園で会う子供とも一緒に遊ぶようになっていきました。私たちと生活するようになって乳児院以外の所にも心を開いて、リラックスして生活できるようになっていったのかなと思います。

私は仕事を一時やめていたのですが、今は幼稚園や習いごとを最優先して、その合間に仕事をしています。完全にやめてしまうと復帰は難しいと思うので、仕事を再開できたのはありがたいです。幼稚園は行事も多くて今日は運動会だったのですが、時間をやりくりしながら一緒に楽しませてもらっています。

幼稚園では姉御肌というかリーダー的ですが、家では食事や着替えばかりかトイレの水流してとか、何でもしてもらいたがります。抱っこをせがみ、特に夫には強烈に言うので大変ですが応じています。小さい頃、十分に甘えられなかった気持ちを少しでも解消できればと思い、できるだけ赤ちゃんがえりを受け入れるようにしています。

嬉しいことはやはり子供の成長です。ブランコを一人でこげるようになったり、名前が書けるようになったり、数字が数えられるようになったりするのを一緒に喜べることは、とてもポジティブで幸せなことだと思っています。

今の私は幸せを感じていますが、こういう養育家庭が成り立つのも周囲の方々のサポートがあればこそです。関係者だけでなく私の親の理解というのもあります。実は、里親になる話をしたとき、「えっ、やるの」というような様子で父に驚かれました。賛成してくれると勝手に思っていた私はショックで、後から涙してしまったのです。そんな自分にまた驚き、両親に自分の生き方や選択を認められたい気持ちが心の奥底にあったのだと気づきました。同時に、私は親という存在があって育ったけれど、長期に家庭養護が必要とされている子供は、長きにわたって向き合ったり感情をぶつけたり、自分を見守ったり肯定してくれたりする存在がいないのだと気づきました。それは本当に過酷だと、ならば私が十数年でもそういう役を担っていいのではと、しみじみ感じました。

私の親は、私達の生活の変化等を心配したそうで里親に反対ではなかったので、きちんと説明したら応援してくれるようになりました。子供との生活は最初は大変でも、私のように時間が解決する場合もあるので、できれば幸せな時間を共有する子供と里親が増えてくれたらいいなと思います。親にも理解してもらえて里親になる方が一人でも増え、幸せな子供が一人でも増えてくれたらと思います。

１５　たくさんの喜びと幸せに溢れた里親の日々

【里母】

我が家は、養育家庭歴が７年目で、その間一時保護委託が８人、４年前にファミリーになった来年小学生になるタロウ君と、昨年加わった２歳のハナコちゃんがおります。あと実子が２１歳の長女、中３の女の子、中１の女の子、小４の男の子、大人が四人、合計十人の大家族です。私は二人目が６年間授からず、その間に里親を考えるようになりました。でも家族全員にすぐには理解してもらえませんでした。その後４０歳で四人目を授かり、もう子供を産むことはないなと思いながら、子育てしておりました。そのころ、ニュースなどで社会的養護の子供について目にする機会が増え、身の回りにも里親をされている方が多くなりました。私にも何かできることはないかなと思ったときに、里親のことが心にひっかかっていたので、一人でも助かる子供がいるのなら、里親にならない選択肢はないと考え、家族とも時間をかけて話し合い、里親登録しました。

現在、ハナコちゃんを迎えて１年が過ぎました。我が家は今、最高に幸せです。子供たちがけんかをしない日は１日もありませんが、それ以上に笑いが飛び交っています。二人とも保育園に通っているので、私は衣食住の提供をして、愛情をたっぷり注ぐぐらいで、大きなことは何もしていません。でもハナコちゃんの成長はすごいです。毎月身長が１センチちょっとずつ伸びて、２歳の誕生日ぐらいからおしゃべりができるようになり、今では一人前な口を利くようになりました。保育園に行く日は、毎日お隣の野良猫ちゃんを探して、話しかけながら保育園に行っています。保育園まで歩いて２、３分ですが、その途中に、いつも庭木をきれいにしているおじいちゃんがいて、おはようとあいさつします。その先に今度は花の水やりをされているおばあちゃんがいて、いつも声をかけてくださります。一度そのおばあちゃんと「一緒に行こうか」となってからは、毎朝一緒じゃないと行けなくなり、手をつないで保育園まで行っております。我が家は里親をしているということを地域の方々に公表していて、理解をしていただいており、里子ちゃんたちは温かく受け入れてもらっています。

ハナコちゃんは、１年前まで乳児院にいて、そのころはいつも何か薬を飲んでいる状態でした。肌もかさかさで、保湿剤を塗ってもらっていました。長期外泊に入るときには中耳炎がずっと治っていなくて、水が溜まっているので手術をすることになりました。ところが、外泊中に耳鼻科に行くともう水が抜けており、それ以降全く中耳炎にならず、結局手術はしなくて済みました。そればかりか、保育園で手足口病がすごく流行した際も、ハナコちゃんは毎日頑張って通いました。病は気からということわざがありますが、何か心が病気に大きく影響しているのではないかなと強く感じました。

４年目になるタロウ君ですが、我が家での生活になれ、兄弟げんかもし、イエス、ノーもはっきり言います。とても穏やかな子で、優しい心を持ったタロウ君ですが、自分が里子であり、２歳で乳児院から来たこと、生んでくれたお母さんが別にいること、全て理解しております。ただ、それはタロウ君にとってはうれしいことではなく、３歳のころ私が、「タロウ君、大きくなったら何になりたい」と聞いたとき、「お母さんのおなかから生まれたい」と言いました。もう何も言えなくて、ちょっとそれからはその話はしないようしています。そういう気持ちを持っているようです。

来年１年生になるので、今はそれを楽しみにお手伝いも率先して、自分のことは自分でできるように頑張っています。先日、お泊まり保育があり、お小遣いを持って自分でお土産を買ってきました。お迎えの時、みんな電車の箱のお菓子を買ってきていていましたが、電車が大好きなタロウ君はそれを持っていませんでした。「電車のお菓子買ってこなかったの。」と聞くと、「だって１０個入ってないとだめでしょう。だから我慢したの。」と言うのです。うちの家族は十人なので、電車のお菓子だと数が足りないと思い諦めたようです。もううれしくなって、ホームで気持ちが高まってぎゅーっとして「ありがとう。」と抱きしめました。その話を家でして、みんなですごいねと、じゃあタロウ君が買ってきてくれたタルトを食べようと開けると、何と６個入りだったのです。本当に大爆笑して、気持ちはうれしいねとみんなで仲よく分けて食べました。

今年の夏休みに、お向かいのおじいさんとおばあさんが、４年生の実子とタロウ君を上野の恐竜展に連れて行ってあげたいと言ってくださり、初めてだったので大丈夫かなと思いましたが、その気持ちがうれしくてお願いしました。それもタロウ君にとって貴重な経験になって、本当に喜んで帰ってきました。

また秋の運動会、ずっと雨で延期になって、ようやくできた日が私と主人の仕事の都合がつかない日でした。でも最後の運動会だったので、どうしても出してあげたくて、保育園やお友達のお母さんたちに協力をいただいて、運動会に参加できるようにしました。もともと人前で何かをするというのが苦手な子で、初めての保育園のお誕生会でも私の顔を見た瞬間に大泣きして、うまくできませんでした。でも、今年は年長さんで本人がすごくやる気だったので、見に行けないけど皆さんにお願いしました。写真を撮るのが大好きなお母さんが１００枚近く写真を撮ってくださいました。個人競技は、今日お母さんが来ていないタロウ君に大きな声援が送られたそうです。それにより自分が本当にヒーローになった気持ちになって、自慢げにすごく喜んでいました。周りのお母さんたちの気持ちが本当にうれしくて、ちょっと胸がいっぱいになりました。そのときに「タロウ君、こういう気持ちって何て言うか知ってる」と聞いたら、「やったね」とかと言うから、「こういう気持ちはし・あ・わ・せというんだよ」と教えてあげました。

里子だからではなく、子育てには本当にいろんな苦労があると思います。もう限界とか思うことが多々あります。そんな毎日だからこそ、ちょっとした一言や行動がとても大きな喜びにつながります。初めは第２子ができなくて、子供が欲しいから里親にという思いから、社会的養護を必要とする子供たちを一人でも助けたいという思いに変わっていき、今ではこちらがたくさんの喜びと幸せを与えてもらっています。きっかけは何だっていいと思います。全ての子供たちに安心と安全なファミリーが恵まれますようにと願って、私自身、これからも里親活動を続けていきたいと思います。

１６　二つの里親家庭とつながって

【元里子】

今年大学に入りました。私は二つの里親家庭を経験し、その経験を話そうと思います。

まず、私の１８歳までの経験を少し、時系列的に話したいと思います。

０歳から５歳の時、私は都内で生まれ、実の親の顔を知らず、施設で育ちました。記憶は結構曖昧ですが、十数名の施設の子どもたちとご飯を食べたり、けんかもした記憶があります。誕生日にはディズニーランドに行ったことを今でも覚えています。

この期間で、私は一度、里親家庭を経験します。ほとんど記憶がないのですが、今まで集団生活をしてきた私は、初めて施設との生活の違いに気づくことになります。

次は小学生から高校２年生までです。幼稚園の年長で私は二番目の里親家庭に迎えられます。ベテランの里親さんで、この間に私の基礎といえるものが作られています。

高校２年生の時、里親さんの体調が崩れて、私は大学進学したい気持ちが芽生えたのですが、一緒に生活していくことが困難になりました。この事実に、そのときは衝撃を受けたんですよね、ここのことはまた後ほどお話しさせていただきます。

そしてこの時期、私は三度目の里親家庭を経験しました。正直、高校生からの新しい生活は不安だったんです。実子もいると聞いたことも不安材料でした。でも、私の意に反して、本当に温かく迎えられ感謝しています。後ほどお話していこうと思います。

では、私を育ててくれた二つの里親家庭について話します。

まずは、二番目の里親家庭です。幼稚園の年長でこの家庭に入り、じきに小学校へ入学します。高校生の里子が二人いて、私は末っ子みたいに可愛がられていました。施設では同年代の人たちとの関わりしかなかったので、最初はすごく新鮮でした。

幼い私は、いたずらが好きで、畑に落とし穴をつくって、かなり怒られたことがあるんですね。宿題を終わらせてから遊びに行きなさいとか、しっかりしつけをしてもらいました。高学年で、私は野球に興味を持ち始め、里親さんが、地域のクラブチームに入ることを勧めてくれました。やりたいことを思う存分させてくれ、いけないことは叱ってくれました。私も里親家庭だということに違和感もなく生活していました。

中学生になると、周りの家庭環境と少し違うことに気づき始めます。友達から、なぜ親と苗字が違うのと聞かれる時があって、その際に自然と私は、ごまかしていたんです。他人と違うことに劣等感を感じ、心のどこかで、いじめられたり仲間外れにされたりするのではないだろうかという思いがありました。

中学２年生の頃、初めて反抗期を迎えます。多分どの家庭にもあると思うんです。血のつながっている親子って言いたいことも言えるし、けんかも取っ組み合いのけんかとか、そういうイメージがあるんですが、自分の場合は血がつながっていないというのが心の片隅にあって、自分の中でブレーキがかかって、言いたいことも言えないことがありました。私は里親さんと正面から向き合えず、ものに当たったり、学校でもちょっとしたことでトラブルを起こし、生徒指導もされました。

高校受験のとき、私は勉強ができず、焦りを感じていました。そんなときも里親さんが私を塾へと通わせてくれました。そして無事第一志望の高校に合格しました。今思うと、反抗ばかりしていた自分が情けないなと感じます。不安定だったこの時期を乗り越えることができたのも、大きな愛情を持って、私を見守ってくれた里親さんのおかげだと思っています。私ひとりでは到底乗り越えることができなかったと思います。

高校生では、お弁当になったり、部活の帰りが遅くなり、里親さんの負担が大きくなっていきました。この時期、私は自分の意見を強く持つようになり、里親さんに心無いことも言いました。たくさん迷惑をかけていました。ここでまた大きな転機を迎えます。

高校２年生のときに、里親さんの体調で生活継続が困難な状況になりました。本来このような状況では、里子は一時保護の後に施設へ行く場合があります。私はこの年で施設へ行くことが嫌でした。児相の職員の方々に思いを汲んでもらい、別の里親さんを紹介してもらいました。学校生活にも全く支障のないスムーズな流れでした。

新たな生活の中、新たに関係を築いていくことにかなり不安がありましたが、三番目の里親家庭は、初めから私を家族として迎え入れてくれました。本当にこのときのことを思い出すと、自分は愛されているんだなと感じました。受験のときも、私が勉強に集中できるように大学を調べてくれ、奨学金や、アパートを手配してくれました。

私は今、教員になりたいと大学に通っています。それは私を特別扱いすることなく、自然と寄り添っていただいた中学校の先生の影響が大きいです。私を周りと同じように接してくれて、私はそれが好きでした。

きっと私と同じような状況で苦しむ子どもたちは、周りにいると思います。そんな子どもたちを、学校に来たときだけでも、自分には実の親がいないという思いを抱かせることなく、一人の生徒として楽しく生活することができる学級づくりをしていこうというのが目標です。私が教師になって恩を少しでも返していけたらなと思っています。

私を大きな愛情をもって育ててくれた二つの里親家庭とは、措置解除後、今でもつながっています。先日は泊まりに行き、思い出を語り合ったり、今の近況報告みたいなのを話したりしました。措置解除になった里子は、本来は帰る場所がないと思うんですが、私のために帰る場所を用意してくれて、ずっと私のことを見守ってくれています。だから私は血がつながっていないのですが、本当に親子だと思っています。

これから里親を希望される皆さんには、少し不安がある方がいるかもしれません。しかし、それ以上に子どもって、私もそうでしたが、不安や孤独などを感じています。初めは、うまくいかないことがたくさんあると思います。一緒に生活していく中で、これ以上はもう暮らせないなと思う時があるかもしれません。そこで突き放したり、手放したりするのではなく、ちょっと上からなんですけれども、引き寄せて十二分な愛情を注いでいただけたらなと思います。そうすることで、子どもの閉ざされた心が、私もそうなんですが、開いてきて、本当に親子のような関係が築けると思います。

私をここまで育ててくれた全ての方々に感謝したいと思います。

１７　お互いに我慢をしないで、つながっていく

【実子】

今日は私の経験を通して皆さんにも何か伝えられたらと、来させていただきました。

もともと私も妹も、家族以外の人に家に来てほしくない性格でした。母は自分がやりたいと思ったことはやる人で、そこをイエスと言ってよかったと思えるくらい、人が家にいるのも悪くないと思えるようになっています。母が幸せそうだと思うこと、家の中に活気があること。小さい子たちや、若い子がいることで会話がすごく増える。人は会話をしていないと心が死んでいくんだなと、身をもって感じていたので、それはよかったなと思っています。

我が家に来てくれ、我が家でよかったと言ってくれる子が多いのはうれしいことです。母の魅力や、家の魅力もあると思いますが、我が子なりに自分の家で育った悩みはあるし、母も厳しかったし、その厳しさにみんな耐えられるかなという不思議さもありました。私に何ができるかなと考えながらいますが、この生活の中で自分がその子たちに気負ってかかわると、それを子供たちって肌で感じると思っています。何かしてあげよう、生活を変えてあげようと思うと、それは難しいし、育ってきた環境がそれぞれあるため、次に向かおうと思えるほどの力が、まだ育っていないこともあると思っています。私は職業として幼稚園教諭をしているのもあり、すぐに子供が変わるのは難しいなと思っていて、じゃあ何をしようかと思ったとき、我が家のルールは我が家のルールとしてその子たちに伝える、私も人間として言いたいことは言う。お互いに我慢をしないで生活をしていく、という風にやっていきたいなと思っていました。

今一緒にいる子が５歳と高校１年生と高校３年生なんですが、中高校生と一緒にいるのは難しいなというのを今、肌で感じています。体は高校生なんだけれども、私の話を聞いてほしいというのが強くて、その子たちの思いが強いほど、逆に家にいる身としては、自分の居場所がないような気がしてしまうことがあります。私のお母さんなのに人に取られている感はあって、そこは苦しいところです。「また帰ってきたんだ」みたいな感じの目で見られることもあって、私の家なのにと思うこともありました。そこで自分も何かもやもやしたり、その子たちと一緒にいたくないなと思ってしまう、大人げない気持ちもありました。でもそれも母が気づいてくれ、いつでも帰ってきていいんだよと連絡をくれたりもして、心のささいな動きに気づいてもらっているのはありがたいなと思っています。大きい子ほど、預かる方も大変だろうし、何かこの子たちにしてあげなきゃって思う気持ちも強くなるんだろうなと、自分が里親ではないんですが、感じることがあります。その子たちからすると、私は実子で両親がいて、家もあって何も困らないし、お姉ちゃんはいいよねと思われるのが悲しくて、その子たちにも両親がいたはずなのに、そう思えない現実があります。助けてはあげられないけど、その子たちが生きていくときに、今までかかわっていた人や、私や私の家族に出会ってよかったなとか、出会って力になってくれたなと思えてくれていたらいいなと思いながら接しています。

また、母は何を求めてここまでしているのかなというのをすごく思うんです。子供たちが未来に向かっていくに当たって、自分で生きていく力を身につけさせたいと思っている。今、私は５歳の子と

寝ながら、リビングで母と高校生たちが学校のことや社会のことを話しているのを聞いてそう思います。母はかわいそうだなという目で見ていないというか、ちゃんと今の現実を伝え、自分の思いをちゃんと伝えている。そういう大人が減っているのかなと私は思っています。

私が養育家庭として一緒に過ごして幸せだったなと思うのは、１年か２年前に、我が家から１８歳で外に出た女の子がいるんですが、高校１年生でうちに来たときは、まず笑わない、最低限以上しゃべらない。でも生活面で言われたことはやる、ちゃんとした子ですが、表情が見えにくく、この子は何を考えているのかなとずっと思いながら、私も普通に話して接していました。高校３年生で最後に進路を決めるときに、保育士の学校に行きたいと言って、「お姉ちゃんがやっているような仕事をやってみたい」と言ってくれた。この子なりに私の仕事を見たり、話を聞いたりして、自分もやってみたい、人のために何かをしてみたいと思うようになってくれたんだ、というのがうれしかったです。でも反面、その子は自分の感情を自分で伝えることをしなくて、保育士は子供に何かを伝えたり、相手の表情を読み取ったり、という、繊細な心を築いていけないとできない仕事だと思っているので、私はうれしかったけど、今のその子にやってほしくないと思って「今の状態ならやめてください」と言ってしまったんですね。やりたいと思っても、人間関係もいろいろあるので、そこで粉々になって砕けてしまっても困るし、逆に子供たちがそんな表情の先生に面倒を見られても、私は困ると思ったので、今のままだったら嫌だなというのを言いました。でもそれでも目指していくと専門学校に入ったあたりから、ぱーっと開けてきて、変化が見えました。自分が何をしたいか、自分がこうして生きていこうというのを決めた子というのは強いんだなというのを肌で感じました。そこからはもう、家に来ても人が変わったようにいてくれて、前までは家に来ても片隅にちょこんと座っているタイプだったんですけど、今ではもうソファーにどかんと座って、“私の家よ”ぐらいな感じでいたりします。全然それでいいなと私は思って、今その子が実家に遊びに来てくれるようになったときに、今いる高校生たちに自分も里子としての立場として言ってくれる。私が言いたくても言えないことや、私が言うと角が立つということを彼女が言ってくれることで角が立たないこともあるので、それはすごくありがたいなと思うし、緩和剤というか家の中の実子と家族とのかけ橋になってくれている。この子がいれば私は実家に帰らなくても家の中は多分回るだろうなと思って、すごく頼りにしています。我が家から巣立っていった子がそこまでの力を持って、誰かに何かを返していきたいと思って家に来てくれたり、母が困っているときに子供たちにかかわってくれたり、何かを返してくれているという時間が、私も家族としてよかったなと思うし、そういうこつこつしたことが人がつながっていくということだとも思うし、つながっていける人がふえていけるといいなと私は今、思っています。

１８　子供との潤いのある毎日～優しい兄と社交的な弟～

【里母】

現在、家族として、３歳間近で委託を受けた中１のA君、２歳半で委託を受けた小４のB君と一緒に生活をしています。里親登録をしたのは、今から１１年ほど前で、私は４０代後半でした。里親になろうと思った大きなきっかけは、実子がいなかったことです。子供をあきらめ仕事中心の生活をしていましたが、子育てがしたいという思いが強くなり、主人に相談すると、すぐに前向きに考えて同意してくれたので、登録に至りました。

A君の話をいただいたのは、登録してから半年後くらいでした。連絡が来るのを待ち望んでいたので、もううれしくてドキドキしたことを今でも思い出します。交流する前は会える日を楽しみに、交流が始まってからは一緒に生活をすることを想像しわくわくしていました。交流は順調で３カ月後には長期外泊となり、そのまま委託になりました。

委託後は、乳児院での規則正しいリズムを崩さないほうがよいと思い込み、けれどもそのとおりにいかずに焦り、子育ての大変さを目の当たりにしました。A君にとって、突然一緒に生活するようになり、すぐに慣れるわけがないと思えるまでに、何カ月もかかりました。

そして、生活が落ちつき始めたころから、A君は赤ちゃんのときのことを頻繁に聞いてくるようになりました。生まれたときからこの家の子供だと記憶が塗りかえられ始めているようでした。真実告知は、里親にとってとても大きな役割の一つですが、関係が壊れるのではないかと不安になり話すことができませんでした。しかし、主人と相談をして４歳の誕生日に伝えることにしました。主人がA君を膝の上に抱え、乳児院から預かったアルバムを見ながら、どうして最後に初めてお母さんが出てくるのかを伝えました。話が終わったとき、A君の中で少し時が止まった感じでしたが、何も聞き返えさず、その後は赤ちゃんのころのことを聞いてくることが少なくなりました。しばらくして、寝かしつけのとき突然A君が布団の中に潜って、「おぎゃあ」と言いながら私のおなかから生まれてくるまねをしたのです。A君なりに理解してくれたんだなと思いました。真実告知後は、私の気持ちも楽になり、肩の力も抜けたような感じでした。毎日一緒に過ごす中で主人も私もどこかで私たちの子供だと思いたい、本当の親になろうと必死だったのかもしれないと、気づくことができました。その後も折を見て確認をしてきましたが、今の生活は変わらないし、A君のことを大切に思っていると伝えています。A君は理解した上で、家族の一員として安心して生活をしているようです。

A君が年中のころ、２人目の委託の話がありました。A君の気持ちを聞いて反応を見てから決めることにしました。A君に聞くと、「うれしい。僕、弟が欲しい。」との返事。それを受けて、B君に３人で会ってみました。B君はとても人懐っこく、早く家族の一員になりたいと強く意思表示をしていたように思います。A君はとてもB君をかわいがり、一度も「弟になってほしい」という気持ちがぶれなかったように思います。一緒に生活するようになってからも、いつもお兄ちゃんとして優しく接してくれました。

B君は初めて会ったときからニコニコしていて、警戒心がなく社交的という感じでしたが、抱っこ

をすると体がのけぞってしまい、やりづらかったです。嫌なことがあると体中で表現し、長い時間泣き叫んだり、物を投げつけたりすることもよくありました。年中くらいになり、少しずつ気持ちを元に戻す時間が短くなり、気持ちを話せるようになって落ちついてきたように感じました。このころから、抱っこもぴたっと体を預けてくれるようになり、大丈夫かもしれないと実感しました。B君への真実告知については、A君からダイレクトに伝えられることが多く、自然と理解が進んできた感じがします。きっかけを作り生い立ちの話をしていますが、「もうわかってる。」と少し不機嫌になりますが、話の最後に、大好きだと伝えると機嫌が直ります。

７年を経て、２人は本当の兄弟のように過ごしています。うちではゲームの時間が決まっているため朝６時前に起床し、早く起きたほうがもう１人を起こし、７時までゲームをします。A君は中１で思春期になり反抗期でもありますが、素直で優しい面もたくさんあります。お手伝いをしたり、B君の面倒も見てくれ、頼もしい存在です。先日、１８歳になったら里親子の関係は終了し、その後はA君の意思で家を出ても、このまま家にいてもいいという話をしました。最近A君は、高校と大学にも行きたいと将来のことを話すようになっています。B君は社交的で、次男坊特有の世渡り上手な子供です。２人とも性格はまるで違いますが、前を向いて元気に過ごしている姿には、いつも元気をもらっています。主人は子供たちを大切に思い、子供たちも主人のことが大好きです。子育てについては私のやり方を尊重してくれ、必要なときにはびしっと対応してくれています。そんな主人の姿が父親像として、子供たちのお手本になればと思っています。

ここまで子育てをしてこられたのは、多くの方たちとの出会いや支えがあったおかげです。それぞれの実家は、委託当初から我が家の子供として受け入れてくれ、子供たちも田舎に遊びに行くことを楽しみにしています。また、ママ友も大きな存在です。私はA君の委託後、すぐに自宅近くの児童館の集まりに参加しました。そこで知り合ったママ友とは、長い付き合いをさせてもらっています。それ以外にも、職場の同僚や幼稚園、小学校の先生、近所の方々など、多くの方から助けられてきました。そして、里親としての悩みは、里親同士話をすることで安心することができ、色々な情報も得ることができます。昨年度から始まったチーム養育というシステムは、いろいろな関係機関が、子供を中心にサポートをしてくれ、決して１人での子育てではないことを実感しています。

私たち夫婦にとって、子供との生活は山あり谷ありですが、それも含め潤いのある充実した生活を送っています。夏は海水浴、冬はスキー旅行が、我が家の２大イベントで、子供たちのサッカーの試合を応援に行くことも楽しみです。A君の措置解除まであと６年。２人とも、自分の生い立ちに思い悩み、自暴自棄になることもあるかもしれません。そんなとき、気持ちを受けとめることしかできないですが、「君だけをちゃんと見ているよ」という姿勢だけは崩さず、見守っていきたいです。私は落ちついた環境の中で信頼できる人たちと生活を送ることが、子供たちの将来に必ずやプラスになると信じています。より多くの子供たちが、そういう機会を得ることができることを願いたいです。

１９　５歳の男の子が社会人になるまで～成長を感じる今～

【里母】

我が家に里子の男の子が来たのは１０年以上前、彼が５歳のときでした。里親を考えたきっかけは、礼拝に通うキリスト教の教会仲間に、自分のお子さんと同齢の男子２人を預かり育てている方がいたことです。でも、私は実子と同じように育てる自信はなく、住宅面でも当時は無理だと思っていました。その後、貧困や飢餓に苦しむ人々を支援する団体のワークキャンプに参加し、自分に何ができるのかと考えさせられたことや心身障害児訓練施設での経験もあり、里親をより具体的に希望するようになりました。実子も夫も賛成してくれて驚きました。里親の体験談を聞き勉強会にも出席し、大変な状況のお子さんを育てた方々のお話を聞きました。覚悟を決め里親の申し込みをしました。

意外と早く児童相談所から５歳男児の紹介がありました。当初の希望は２歳前後。５歳だといろいろなことがわかってきて難しいのではと思い、もう一度考えたいと電話を切りました。娘に話すと「選んではだめなんじゃない？」。そうかもしれないなと思い、児童相談所の方からお話を聞くことにしました。いろいろ事情を伺い、写真も見せていただくと、息子が「可愛いからいいんじゃない？」と嬉しそうに言いました。もう一度家族で話し合って交流を始めることにしました。

施設に訪ねると、彼はなかなか目を合わせず、紙に絵を描いたりボードに魚の絵を描いたりしていましたが、こちらの質問には答えてくれました。２回目は、里父が行けず実子達と３人で会ったのですが、彼は里父の顔をさっさと描き、それがまたよく似ていたのです。里父をすぐ好きになってくれたのだと感じました。それから何度も訪問し、遊んだり外出したりしながら、少しずつ慣れてくれた様子でしたが、いつも私たちと別れるときはあっさり「バイバイ」で、振り向きもしないのが不思議でした。職員の方に聞くと、施設の子供たちは切りかえが早く、そういう習慣がついているということでした。当時その施設は、里子を出した経験が少なく交流に慣れておられないようで、私たちが「次こうしたいです」と申し出ないと先に進まない感じがありました。でも、先生方はとてもよく子供たちを見ておられ、子供たちも幸せそうに見えました。

その後、週末外泊を何回か経験し、幼稚園の一学期を区切りに我が家に迎えることになりました。約束の日に施設に迎えに行くと、「今日は行きたくない」と大声で泣いていました。大々的にお別れ会をしてもらいたかったようで、翌日また迎えに行くと、大勢の友達から盛大に送ってもらい、喜んでお別れできました。

私はパート勤務をしており、ちょうど空いていた保育園に入れることができました。園長先生がとても里親に理解があり、皆で応援すると言ってくださったので、とても心強く嬉しかったです。家に来ると、施設からもらった大きな熊の縫いぐるみを毎晩抱いて安心していたようです。経験がないせいか、公園で遊ぶようになるまでもしばらくかかりました。里父をすぐ「お父さん」と呼んだのに、私は「先生」とか「おばさん」で、毎日びっくりすることをいろいろしてくれ、理解できないことも多かったです。３か月ほどは彼が眠った横で涙が出てくることがありました。「お母さん」と言ってくれた時は「やった」という感じでした。

半年ほどの保育園生活でしたが、運動会のソーラン節を堂々と踊り、卒園式の劇ものびのびと演技して、あがらないすごい子だなと感心したものです。担任から「最初は少し遅れがあるかもしれません」と言われましたが、その後めきめき成長しました。

小学校に入ると友達と毎日遊んでいました。３年生になるといじめられてクラスメイトとは遊べなくなりましたが、近所の子とは遊べて慰めになっていたようです。私は教会や児童相談所の方に相談して不安な時期を何とか乗り越えることができました。

途中から私の母が同居することになり、おばあちゃんと言える人ができ、逃げ場所ができてよかったようです。小学校の間は、お金の問題や「こんな学校は嫌だ」と言うこともありました。書道教室で賞をいただいたり、サッカー選手になると言ってチームに入ったのに、一生懸命やらず間もなくやめてしまったり、いろいろありましたが、とにかく休まず通い卒業しました。また、春、夏、冬と教会の仲間たちと八ヶ岳のキャンプ場で過ごすことが大好きで、小学１年から参加し続け、毎回楽しんで帰ってきました。

中学入学の際医師とも相談しましたが、通常学級で大丈夫ということになりました。少し遠いけれどいじめた子のいない学校を本人が選びました。興味のないことは全く耳に入らないタイプで授業のノートもとらず、面談で先生から聞く話に驚くことばかりでした。部活は緩やかな卓球部で部長になり、顧問の先生のフォローで無事終えることができました。中学３年間、途中で行かなくなるのではととても心配でしたが、ほとんど休まず行事にも打ち上げにも参加しました。高校は普通科向きではないと感じていたので農業系の都立高校を見学すると、広くのびのびした雰囲気が気に入り、そこに入学しました。しかし、やはり勉強せず毎年進級の心配をしましたが、行事には一生懸命で、１時間半近くかかる学校に自力で起きて通いました。何とか卒業し、学校に求人の来ていた建設会社に就職できました。

就職したら家を出なければいけないと彼は考えていました。でも、実の親と関わりがない彼を養子にする心づもりがあったので、それを話すと「家に居ていいんだ」と安心したようでした。18 歳で措置解除となり、養子縁組の手続き完了後、実母と会う機会がありました。捨てられたとそれまで感じていた彼は、生まれた頃の事情を実母から直接聞いて、安心したような顔をしていました。心が晴れたのだと思います。また会いたそうな実母に、彼は「国へ帰ってちゃんと働いて、旅行にでも来たときもう一度会いましょう」と答えました。この日は今までの彼と別人のようで、でも、６歳の保育園での立派な姿が蘇るようで、頼れるところもあるのかもと思える嬉しい時となりました。

今は毎朝５時前に出勤し頑張っています。家族への思いやりや自然な感情がなかなか見えないことにかつて悩まされ、子供が愛され抱っこされ無償の愛を受けることがどれほど大切か研修等で学びました。でも、彼は社会人になり少し思いやりが出てきた気がします。全ての子供が温かい家庭の愛情の中で育つことを願っています。

令和元年度　養育家庭体験発表会　参加者数

※受付時の名簿内容を反映し、数字で記載してください。

開催日	開催場所	区市町村	担当児童相談所	参加人数				
				養育家庭・フレンドホーム	都区市町村及び関係職員	民生児童委員主任児童委員	一般・学生その他	合計
令和元年９月１日	文京シビックセンター ５階区民会議室	文京区	児童相談センター	5	10	4	46	65
令和元年９月２６日	としまセンタースクエア	豊島区	児童相談センター	3	35	27	25	90
令和元年１０月５日	三鷹市教育センター　大研修室	三鷹市	杉並児童相談所	12	10	1	26	49
令和元年１０月１０日	西東京市住吉会館 ルピナス	西東京市	小平児童相談所	5	8	1	16	30
令和元年１０月１７日	昭島市役所会議室２０４	昭島市	立川児童相談所	4	7	1	17	29
令和元年１０月１９日	小平市中央公民館	小平市	小平児童相談所	5	14	2	11	32
令和元年１０月１９日	子ども未来センター ２階会議室	立川市	立川児童相談所	8	7	0	17	32
令和元年１０月２０日	武蔵野プレイス　４階フォーラム	武蔵野市	杉並児童相談所	9	6	1	26	42
令和元年１０月２４日	日野市役所505会議室	日野市	八王子児童相談所	4	60	1	22	87
令和元年１０月２６日	小金井市市民会館 萌え木ホール	小金井市	小平児童相談所	1	11	7	16	35
令和元年１０月２６日	江戸川区総合文化センター	江戸川区	江東児童相談所	4	15	28	93	140
令和元年１０月２７日	中央区教育センター ５階視聴覚ホール	中央区	児童相談センター	0	0	2	16	18
令和元年１０月２９日	青梅市役所　会議室	青梅市	立川児童相談所	2	19	0	10	31
令和元年１０月３１日	クリエイトホール	八王子市	八王子児童相談所	9	44	3	67	123
令和元年１１月２日	神明いきいきプラザ	港区	児童相談センター	3	6	1	25	35
令和元年１１月４日	江東区総合区民センター	江東区	江東児童相談所	4	5	1	37	47
令和元年１１月７日	府中市民活動センタープラッツ	府中市	多摩児童相談所	3	56	0	13	72
令和元年１１月７日	東大和市民会館　ハミングホール	東大和市	小平児童相談所	6	27	4	20	57
令和元年１１月８日	多摩市永山公民館　ベルブホール	多摩市	多摩児童相談所	2	31	1	35	69
令和元年１１月８日	板橋区立グリーンホール	板橋区	北児童相談所	1	8	1	34	44
令和元年１１月８日	奥多摩町子ども家庭支援センター きこりん２階	奥多摩町	立川児童相談所	5	11	1	5	22
令和元年１１月９日	帝京平成大学 中野キャンパス	中野区	杉並児童相談所	6	4	0	35	45
令和元年１１月９日	cocobunjiプラザ　リオンホールcocobunji WEST 5階	国分寺市	小平児童相談所	4	15	6	18	43
令和元年１１月９日	赤羽文化センター 第１視聴覚室	北区	北児童相談所	2	6	0	26	34
令和元年１１月９日	もくせい会館 ２階	福生市	立川児童相談所	9	9	2	11	31
令和元年１１月１０日	健康プラザかつしか3階大ホール	葛飾区	足立児童相談所	2	21	1	36	60
令和元年１１月１１日	調布市文化会館「たづくり」	調布市	多摩児童相談所	4	17	1	27	49
令和元年１１月１１日	あきる野市役所会議室 ５０３・５０４	あきる野市	立川児童相談所	4	12	13	7	36
令和元年１１月１２日	町田市民フォーラム	町田市	八王子児童相談所	13	0	12	45	70
令和元年１１月１３日	神田さくら館　７階研修室	千代田区	児童相談センター	0	4	1	14	19
令和元年１１月１５日	東村山市市民ステーション サンパルネ コンベンションホール	東村山市	小平児童相談所	2	13	4	13	32
令和元年１１月１６日	石神井公園区民交流センター 展示室兼集会室	練馬区	児童相談センター	4	14	5	38	61
令和元年１１月１６日	杉並区ウェルファーム杉並	杉並区	杉並児童相談所	4	3	0	23	30
令和元年１１月１６日	荏原第五地域センター 区民集会所２階　第一集会室	品川区	品川児童相談所	3	4	4	11	22
令和元年１１月１６日	武蔵村山市市民総合センター３階	武蔵村山市	小平児童相談所	3	3	7	13	26
令和元年１１月１６日	ムーブ町屋　ムーブホール	荒川区	北児童相談所	3	16	14	23	56
令和元年１１月１６日	瑞穂町子ども家庭支援センター ひばり 地域活動室	瑞穂町	立川児童相談所	3	7	1	12	23
令和元年１１月１７日	生涯学習センターゆとろぎ	羽村市	立川児童相談所	6	13	5	16	40
令和元年１１月１９日	台東区役所 10階　1001会議室	台東区	児童相談センター	1	23	17	47	88
令和元年１１月２０日	東久留米市役所　1階 市民プラザ	東久留米市	小平児童相談所	5	25	0	11	41
令和元年１１月２１日	渋谷区役所 第二美竹分庁舎	渋谷区	児童相談センター	0	0	0	8	8
令和元年１１月２２日	砧区民会館　成城ホール	世田谷区	世田谷児童相談所					171
令和元年１１月２３日	日本社会事業大学	清瀬市	小平児童相談所	14	8	0	13	35
令和元年１１月２６日	足立区こども支援センターげんき 5階研修室	足立区	足立児童相談所	5	15	17	14	51
令和元年１１月２７日	稲城市地域振興プラザ	稲城市	多摩児童相談所	3	13	0	13	29
令和元年１１月２８日	四谷地域センター	新宿区	児童相談センター	0	25	11	13	49
令和元年１１月２９日	日の出町役場　３階 第1・2会議室	日の出町	立川児童相談所	5	11	0	13	29
令和元年１１月３０日	目黒区役所１階　Ｅ会議室	目黒区	品川児童相談所	0	5	4	39	48
令和元年１１月３０日	狛江市防災センター	狛江市	世田谷児童相談所	0	7	4	32	43
令和元年１１月３０日	墨田区女性センター	墨田区	江東児童相談所	1	7	0	16	24
令和元年１２月７日	大田区立消費者生活センター 大集会室	大田区	品川児童相談所	2	2	27	44	75
令和元年１２月７日	国立駅前くにたち・こくぶんじ 市民プラザ	国立市	立川児童相談所	7	15	0	41	63
合　　計				210	707	243	1249	2580

令和元年度養育家庭体験発表会アンケート結果

質問		9/1 文京区	9/26 豊島区	10/5 三鷹市	10/10 西東京市	10/17 昭島市	10/19 小平市	10/19 立川市	10/20 武蔵野市	10/24 日野市	10/26 小金井市	10/26 江戸川区	10/27 中央区	10/29 青梅市	10/31 八王子市
①性別	男性	21	13	13	0	1	3	8	10	40	9	21	4	4	27
	女性	44	27	29	21	14	13	12	20	28	16	77	6	11	56
	不明・無回答	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0		0	1
②年齢	～20代	5	10	4	0	3	2	4	1	15	3	11	2	3	14
	30代	19	6	4	2	2	4	3	5	12	5	13	1	4	23
	40代	24	6	15	9	6	3	4	12	14	4	35	2	5	14
	50代	9	6	16	6	3	3	5	8	18	10	13	4	3	17
	60代	6	7	3	2	1	4	4	2	7	2	16	1	0	9
	70代～	2	5	0	2	0	0	0	2	3	1	9	0	0	6
	不明・無回答	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1		0	1
③所属	一般	43	7	19	14	7	7	1	22	6	12	33	6	1	28
	民生児童委員	3	3	0	1	0	1	0	0	1	5	21	0	0	3
	主任児童委員	1	2	1	1	1	1	0	0	1	1	3	1	0	1
	養育家庭	5	2	9	0	1	2	7	3	2	1	1	0	0	8
	ﾌﾚﾝﾄﾞﾎｰﾑ	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	都職員	2	2	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	1
	区市町村職員	7	5	2	0	0	0	0	0	42	0	7	1	8	32
	施設・関係団体職員	1	1	8	4	5	1	4	3	10	4	3	0	4	7
	学生	1	9	1	0	0	2	4	0	2	1	6	2	0	1
	その他	2	8	1	0	1	1	4	2	2	1	22	0	0	3
	不明・無回答	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2		1	0
2. 養育家庭制度を知っていましたか？（複数回答不可）															
	はい	55	34	37	15	14	16	20	24	52	23	76	9	15	63
	いいえ	11	5	5	6	1	0	0	5	17	2	20	1	0	19
	不明・無回答		1	0	0	0	0	0	1	0	1	2		0	2
3. 養育家庭制度を知った経緯（複数回答可）															
	区報・市報・ホームページ	18	11	11	6	2	4	3	7	6	3	35	3	0	11
	ポスター	9	5	8	4	2	0	2	2	9	2	13	1	1	10
	児相・子ども家庭支援センター	13	10	15	3	2	1	5	3	12	4	22	3	6	15
	児童福祉施設	6	5	9	3	4	4	6	2	7	6	15	0	4	10
	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ	18	4	9	3	5	4	1	8	4	6	10	0	2	8
	テレビ番組	9	5	4	4	3	5	3	2	10	5	17	0	2	13
	テレビCM	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
	ラジオ	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	新聞・雑誌	4	1	2	5	0	3	0	3	10	2	7	0	0	7
	知人・友人	5	5	9	1	2	2	1	3	3	4	8	1	1	12
	図書	2	2	2	0	1	1	0	3	3	0	3	0	0	1
	公開講座	4	3	2	1	1	1	2	2	8	2	9	2	0	4
	その他	6	6	8	2	1	2	4	2	6	3	18	0	2	8
	不明・無回答	0	3	0	5	0	1	1	2	13	3	4		0	22
4. どこで、この体験発表会をお知りになりましたか？（複数回答可）															
	区報・市報	9	8	5	4	2	0	5	5	19	2	13	1	3	24
	都報	5	1	2	0	0	1	2	1	0	1	2	0	0	4
	ポスター	8	2	2	1	0	3	1	4	0	1	2	0	1	5
	体験発表会チラシ	12	8	18	4	3	6	11	8	13	8	26	4	6	22
	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ・HP	18	4	7	3	3	2	1	9	3	3	11	3	0	6
	知人に勧められて	9	15	4	6	5	2	0	4	3	3	8	0	1	13
	過去に参加	4	3	9	1	2	1	2	3	9	5	14	1	2	7
	行政機関への問合せ	2	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	1	1
	その他	5	6	17	4	3	0	4	9	18	9	39	2	5	15
	不明・無回答	0	6	0	2	0	1	1	0	3	1	2		0	3
5. 今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。（複数回答可）															
	養育家庭制度に興味・関心があったから	56	25	22	10	6	9	7	22	17	18	50	5	4	44
	子育てに関わる話が聞けると思ったから	14	5	12	9	4	3	5	3	15	2	39	2	2	25
	仕事や学問などの参考にするため	10	15	7	5	9	4	10	5	31	6	29	3	10	30
	養育家庭になりたいと思っていたから	7	9	4	2	3	3	2	6	2	2	7	1	0	8
	その他	6	3	7	0	1	0	3	2	4	6	12	1	2	9
	不明・無回答	0	0	1	2	0	1	1	0	4	1	0		0	3
6. 今日の体験発表会の感想をお聞かせください。															
	とても良かった	38	26	32	7	13	13	14	20	47	20	42	8	14	61
	良かった	23	13	9	9	2	3	5	5	20	4	49	2	1	16
	普通	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	4	0	0	2
	あまり良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	不明・無回答	4	1	1	0	0	0	1	4	0	2	3	0	0	5
その他感想数		24	18	13	6	7	5	12	12	27	15	50	3	5	29
ｱﾝｹｰﾄ回答		66	40	42	21	15	16	20	30	69	26	98	10	15	84
参加者総数		85		49	30	29	32	32	42	87	35	140		31	123
住所氏名の記述数		23	5	10	6	5	7	7	8	2	8	18	3	0	14

令和元年度養育家庭体験発表会アンケート結果

質問		11/2	11/4	11/7	11/7	11/8	11/8	11/8	11/9	11/9	11/9	11/9	11/10	11/11
		港区	江東区	府中市	東大和市	多摩市	板橋区	奥多摩町	中野区	国分寺市	北区	福生市	葛飾区	調布市
①性別	男性	7	10	3	6	3	5	1	11	6	7	1	5	4
	女性	27	13	48	14	32	42	10	32	26	28	12	19	28
	不明・無回答	1	0		1		0	0	0	0	0	1	3	
②年齢	～20代	2	2	8	1	1	6	0	11	6	8	0	1	18
	30代	9	2	9	1	7	6	2	6	5	9	1	10	3
	40代	10	8	16	3	9	18	4	11	5	6	3	6	6
	50代	9	10	12	8	6	8	4	9	7	8	4	5	1
	60代	3	1	5	5	9	5	0	3	5	3	1	2	2
	70代～	2	0	1	3	3	3	1	3	3	1	5	0	2
	不明・無回答	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	3	0
③所属	一般	20	10	7	6	22	24	1	20	9	16	2	17	6
	民生児童委員	1	0	0	0	0	0	1	0	4	0	2	1	1
	主任児童委員	0	1	0	4	0	1	0	0	2	0	0		0
	養育家庭	4	4	0	2	1	1	3	5	2	2	5	1	1
	ﾌﾚﾝﾄﾞﾎｰﾑ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0
	都職員	0	1	0	1	1	3	1	1	0	0	0		0
	区市町村職員	5	4	28	2	1	1	1	4	1	4	0	2	2
	施設・関係団体職員	0	0	9	3	4	4	3	5	7	4	3	3	6
	学生	1	0	0	0	1	3	0	7	4	8	0		16
	その他	2	2	5	3	3	7	0	1	2	2	2		0
	不明・無回答	1	1	2	0	2	3	1	0	1	1	0	3	2
2. 養育家庭制度を知っていましたか？（複数回答不可）														
	はい	28	21	38	18	29	40	11	36	30	31	13	23	30
	いいえ	7	2	13	1	6	7	0	6	1	4	0	1	2
	不明・無回答	0	0	0	2	0	0	0	1	1	0	1	3	0
3. 養育家庭制度を知った経緯（複数回答可）														
	区報・市報・ホームページ	8	3	8	5	7	8	4	11	7	6	4	4	3
	ポスター	4	0	5	4	4	5	0	1	7	3	3	3	6
	児相・子ども家庭支援センター	14	6	21	10	9	10	4	3	9	7	5	3	6
	児童福祉施設	3	1	2	6	2	1	2	5	4	1	4	4	6
	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ	4	7	2	2	4	7	0	9	3	6	0	5	2
	テレビ番組	3	1	13	2	5	4	2	1	2	5	0	4	4
	テレビCM	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0		1
	ラジオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0
	新聞・雑誌	2	0	3	3	4	1	0	3	3	5	0	3	2
	知人・友人	8	2	5	1	2	7	1	5	3	4	1	5	2
	図書	2	2	1	3	2	2	0	2	4	3	0		3
	公開講座	3	4	2	0	4	4	1	8	5	7	0	2	8
	その他	2	3	3	1	5	5	2	6	11	2	2	5	11
	不明・無回答	5	3	0	3	0	7	1	1	0	4	2	3	0
4. どこで、この体験発表会をお知りになりましたか？（複数回答可）											0			
	区報・市報	6	1	24	8	8	3	2	14	4	9	2	3	4
	都報	2	1	1	0	1	4	1	6	0	2	1	1	1
	ポスター	0	0	6	2	2	0	0	2	3	0	2	1	1
	体験発表会チラシ	12	7	7	8	15	13	5	9	12	11	5	7	10
	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ・HP	8	10	2	0	2	6	0	11	1	1	0	5	2
	知人に勧められて	10	5	4	3	3	7	1	5	4	5	1	3	5
	過去に参加	0	1	4	6	2	4	2	4	3	1	7	2	3
	行政機関への問合せ	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0
	その他	4	2	11	3	11	15	3	7	10	7	2	7	12
	不明・無回答	1	1	0	1	0	1	1	1	1	2	1	3	0
5. 今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。（複数回答可）														
	養育家庭制度に興味・関心があったから	27	15	17	12	15	27	2	22	18	23	6	17	15
	子育てに関わる話が聞けると思ったから	7	5	11	8	11	12	3	9	5	8	4	2	3
	仕事や学問などの参考にするため	4	4	37	10	11	8	5	12	14	8	5	7	23
	養育家庭になりたいと思っていたから	5	4	0	1	1	2	0	11	6	8	1	4	2
	その他	3	4	4	1	7	4	1	2	4	0	1	5	2
	不明・無回答	1	2		1			2	2	0	2	1	3	0
6. 今日の体験発表会の感想をお聞かせください。														
	とても良かった	26	20	27	13	18	37	9	33	25	19	13	19	27
	良かった	9	3	19	8	10	5	0	8	7	11	0	3	4
	普通	0	0	2	0	3	0	0	1	0	1	0	1	0
	あまり良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0
	良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0
	不明・無回答	0	0	3	0	4	5	2	1	0	4	1	4	1
その他感想数		22	8	11	12	16	22	3	15	15	19	7	15	17
ｱﾝｹｰﾄ回答		35	23	51	21	35	36	11	43	32	17	14	24	32
参加者総数		65	47	72	57	69	47	22	45	43	0	31	60	49
住所氏名の記述数		5	8	1	8	7	12	0	7	6	15	1	8	3

令和元年度養育家庭体験発表会アンケート結果

質問		11/11 あきる野市	11/12 町田市	11/13 千代田区	11/15 東村山市	11/16 練馬区	11/16 杉並区	11/16 品川区	11/16 武蔵村山市	11/16 荒川区	11/16 瑞穂町	11/17 羽村市	11/19 台東区	11/20 東久留米市
①性別	男性	5	4	0	4		5	2	7	14	2	9		6
	女性	13	42	19	14		17	20	17	40	7	9		9
	不明・無回答	0	0	0	0		0	0	0	2	0	1		0
②年齢	～20代	0	12	3	3		5	5	0	5	1	1		4
	30代	3	6	4	4		2	4	3	9	3	1		4
	40代	3	8	8	7		8	3	4	10	0	8		4
	50代	2	7	2	4		7	5	7	10	1	2		1
	60代	4	12	2	0		0	4	6	15	2	2		1
	70代～	6	1	0	0		0	1	2	6	1	4		1
	不明・無回答	0	0	0	0		0	0	2	1	1	1		0
③所属	一般	3	8	11	9		16	6	13	18	5	6		9
	民生児童委員	8	4	1	1		0	1	7	11	0	3		0
	主任児童委員	3	6	0	1		0	3	0	2	0	0		0
	養育家庭	1	7	0	1		1	3	2	3	0	3		1
	ﾌﾚﾝﾄﾞﾎｰﾑ	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0		0
	都職員	1	0	0	0		0	1	0	1	0	1		0
	区市町村職員	0	2	2	1		0	0	0	11	1	0		0
	施設・関係団体職員	1	4	2	2		1	2	2	4	2	1		5
	学生	0	10	0	2		4	5	0	3	1	1		0
	その他	1	4	3	1		0	0	1	2	0	4		0
	不明・無回答	0	1	0	0		0	1	0	0	0	0		0
2. 養育家庭制度を知っていましたか？（複数回答不可）														
	はい	17	43	14	18		18	21	21	51	6	16		13
	いいえ	1	2	5	0		3	1	3	5	3	3		2
	不明・無回答	0	1		0		1	0	0	0	0	0		0
3. 養育家庭制度を知った経緯（複数回答可）														
	区報・市報・ホームページ	9	10	2	6		2	6	5	15	1	3		3
	ポスター	5	4	0	2		2	4	1	11	1	4		2
	児相・子ども家庭支援センター	9	21	3	3		1	4	5	11	4	6		2
	児童福祉施設	2	9	2	3		1	3	5	5	3	1		5
	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ	0	4	3	2		7	7	2	5	0	0		2
	テレビ番組	2	3	2	3		2	4	3	2	1	1		3
	テレビCM	0	0	0	0		2	0	0	1	0	0		0
	ラジオ	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0		1
	新聞・雑誌	3	1	0	2		2	4	3	4	0	0		1
	知人・友人	2	5	2	3		4	1	6	6	1	1		0
	図書	1	0	0	1		1	2	0	0	0	0		0
	公開講座	1	11	1	1		1	3	2	4	0	1		0
	その他	3	5	6	2		6	5	2	17	1	5		0
	不明・無回答	3	3	0	0		1	1	1	7	3	3		2
4. どこで、この体験発表会をお知りになりましたか？（複数回答可）														
	区報・市報	6	7	3	3		0	1	7	18	3	2		1
	都報	0	3	0	0		0	1	0	4	0	0		0
	ポスター	3	3	5	0		0	2	1	6	0	0		0
	体験発表会チラシ	10	17	6	7		6	7	5	16	2	9		5
	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ・HP	0	5	4	1		6	7	2	4	0	1		1
	知人に勧められて	1	3	1	6		6	1	6	8	1	3		4
	過去に参加	5	11	1	3		0	6	2	8	0	3		3
	行政機関への問合せ	0	1	0	0		0	1	1	2	0	0		0
	その他	3	10	4	4		4	4	5	11	3	6		1
	不明・無回答	0	0	4	0		1	0	0	0	0	0		2
5. 今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。（複数回答可）														
	養育家庭制度に興味・関心があったから	12	26	7	13		16	15	13	28	5	5		8
	子育てに関わる話が聞けると思ったから	8	13	3	5		1	3	9	14	0	8		1
	仕事や学問などの参考にするため	4	19	8	6		6	8	6	17	3	7		6
	養育家庭になりたいと思っていたから	4	6	2	4		8	4	3	6	0	0		3
	その他	2	2	0	1		0	4	0	7	3	5		1
	不明・無回答	0	2	0	0		0	0	1	0	1	1		0
6. 今日の体験発表会の感想をお聞かせください。														
	とても良かった	15	37	11	10		12	19	22	41	8	18		10
	良かった	3	8	7	5		8	2	2	11	1	1		5
	普通	0	0	0	0		0	0	0	1	0	0		0
	あまり良くなかった	0	0	0	1		0	0	0	1	0	0		0
	良くなかった	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0		0
	不明・無回答	0	1	1	2		2	1	0	2	0	0		0
その他感想数		6	27		7		13	11	16	27	4	8		2
ｱﾝｹｰﾄ回答		18	46	19	18		22	22	24	27	9	19		15
参加者総数		36	70	19	32		30	22	26	56	23	40		41
住所氏名の記述数		3	12		3		9	5	7	14	0	1		3

令和元年度養育家庭体験発表会アンケート結果

質問		11/21 渋谷区	11/22 世田谷区	11/23 清瀬市	11/26 足立区	11/27 稲城市	11/28 新宿区	11/29 日の出町	11/30 目黒区	11/30 狛江市	11/30 墨田区	12/7 大田区	12/7 国立市	総計
①性別	男性	2		8	12	5	9	1	7		7	11	10	373
	女性	6		18	43	16	26	10	33		13	60	31	1,168
	不明・無回答	0		0	0	0	0	0	1			0	0	14
②年齢	～20代	1		4	2	1	5	1	13		4	13	15	239
	30代	0		2	7	2	6	3	7		6	4	11	264
	40代	3		11	10	15	5	4	14		4	13	8	408
	50代	3		7	8	3	7	0	3		3	14	5	313
	60代	1		2	12	0	5	1	3		2	18	2	202
	70代～	0		0	5	0	7	2	1		0	9	0	103
	不明・無回答	0		0	1	0	0	0	0		1	0	0	16
③所属	一般	2		7	13	11	3	4	19		7	20	16	572
	民生児童委員	0		0	13	0	9	0	1		0	28	0	135
	主任児童委員	0		0	4	0	2	0	3		0	3	0	49
	養育家庭	2		7	4	1	0	1	0		1	2	2	114
	ﾌﾚﾝﾄﾞﾎｰﾑ	0		0	0	1	1	0	0		0	1	0	6
	都職員	0		0	0	7	3	1	0		0	2	2	36
	区市町村職員	2		2	4	0	6	0	2		3	1	0	196
	施設・関係団体職員	0		4	6	0	8	4	3		4	2	11	174
	学生	1		4	0	1	0	0	12		4	10	10	137
	その他	1		2	7	0	3	1	1		1	0	0	108
	不明・無回答	0		0	0	0	0	0	0		0	2	0	27
2. 養育家庭制度を知っていましたか？（複数回答不可）														0
	はい	7		24	39	17	35	11	39		18	69	40	1,338
	いいえ	1		2	6	4	0	0	2		2	2	1	190
	不明・無回答	0		0	0	0	0	0	0		0	0	0	17
3. 養育家庭制度を知った経緯（複数回答可）														0
	区報・市報・ホームページ	0		5	18	6	12	3	7		4	22	5	342
	ポスター	0		2	5	4	3	2	1		1	7	7	181
	児相・子ども家庭支援センター	3		8	12	3	10	2	9		4	18	9	368
	児童福祉施設	0		3	5	0	6	3	5		3	4	12	202
	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ	2		5	3	3	2	1	9		5	8	5	208
	テレビ番組	0		1	10	2	5	2	4		2	14	3	197
	テレビCM	0		0	0	0	2	0	0		0	1	0	14
	ラジオ	0		1	0	0	0	0	0		0	0	0	3
	新聞・雑誌	0		0	1	1	2	1	0		2	5	1	106
	知人・友人	1		1	3	1	2	1	5		2	7	2	159
	図書	0		0	0	1	2	0	2		0	1	1	54
	公開講座	1		6	3	4	5	2	9		1	9	9	163
	その他	0		3	7	2	7	2	6		7	19	9	240
	不明・無回答	1		1	6	0	1	0	0		2	0	0	118
4. どこで、この体験発表会をお知りになりましたか？（複数回答可）														0
	区報・市報	0		2	5	11	5	2	4		4	8	2	282
	都報	0		0	5	1	2	0	1		0	3	1	61
	ポスター	0		1	1	2	1	1	1		1	5	2	84
	体験発表会チラシ	4		11	6	8	8	7	10		5	14	11	444
	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ・HP	2		5	3	4	2	2	6		8	8	4	196
	知人に勧められて	0		2	3	0	0	0	8		2	7	6	197
	過去に参加	0		6	5	3	6	4	2		3	15	4	192
	行政機関への問合せ	0		0	0	0	1	0	0		0	0	1	17
	その他	2		4	18	2	14	3	10		2	33	13	386
	不明・無回答	0		0	3	0	14	0	0		0	1	0	57
5. 今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。（複数回答可）														0
	養育家庭制度に興味・関心があったから	1		14	22	12	13	4	15		12	34	22	808
	子育てに関わる話が聞けると思ったから	2		4	18	3	8	2	7		3	10	8	358
	仕事や学問などの参考にするため	4		8	5	9	15	5	18		6	20	20	522
	養育家庭になりたいと思っていたから	2		5	1	5	3	1	6		5	7	7	183
	その他	1		4	9	0	2	2	2		2	13	4	158
	不明・無回答	0		0	1	0	2	0	0		0	4	0	39
6. 今日の体験発表会の感想をお聞かせください。														0
	とても良かった	7		16	30	9	29	10	33		17	54	32	1,081
	良かった	1		8	10	9	5	1	5		3	15	9	367
	普通	0		0	1	0	0	0	1		0	1	0	21
	あまり良くなかった	0		0	0	0	0	0	0		0	0	0	2
	良くなかった	0		0	0	0	0	0	0		0	0	0	0
	不明・無回答	0		2	4	3	1	0	2		0	1	0	68
その他感想数		6		14	19	6	16	5	22		13	44	20	694
ｱﾝｹｰﾄ回答		8		26	45	21	35	11	41		20	71	41	1,484
参加者総数		8		35	51	29	49	29	48		24	75	63	2,128
住所氏名の記述数		4		5	9	3	4	2	6		4	18	8	317

養育家庭(里親)は、様々な理由で親と一緒に暮らすことのできない子供たちを、養子縁組を目的としないで、家庭に迎え一緒に生活し、養育していただく制度です。

【養育家庭(里親)を、詳しく知りたい。】

★　申し込み資格は？

○　平成３０年１０月１日以降の申請から以下の要件になります。

・　都内在住の夫婦で健康な方。

配偶者がいない場合は、子供を適切に養育できると認められ、かつ起居を共に共にし、主たる養育者（申込者本人）の補助者として関わることができる、成人の親族等がいること（子供を適切に養育できると認められる特段の事情がある場合は除く。)。

・　申込者の家庭及び住居の環境が、家族の構成に応じた適切な環境であること。

※その他詳しい要件はお問合せ先に御確認ください。

★　どのような子供を預かるの？

○　親の離婚、家出、病気、虐待等の理由で、親と一緒に暮らすことができない、おおむね 18 歳までの子供です。

★　預かる期間は？

○　養育期間は数年にわたる場合もあれば、数か月の場合もあります。

○　短期間のみ預かる養育家庭もあります。（おおむね１か月以上２か月未満）

★　養育に係る費用は？

○　子供の年齢に応じて、生活費や教育費等が支給されます。

○　養育家庭（里親）には手当が支払われます。

★　養育に必要な支援は？

○　児童相談所が中心となって関係機関と共に支援を行います。

○　養育に疲れた場合には、子供の養育から一時的に離れて休息できる制度があります。

○　里親同士が集う相互交流の機会があります。

○　経験豊富な里親が電話等で相談に応じます。

○　研修などに参加し、養育に必要な知識を学ぶことができます。

【里親制度に関するお問合せ先】

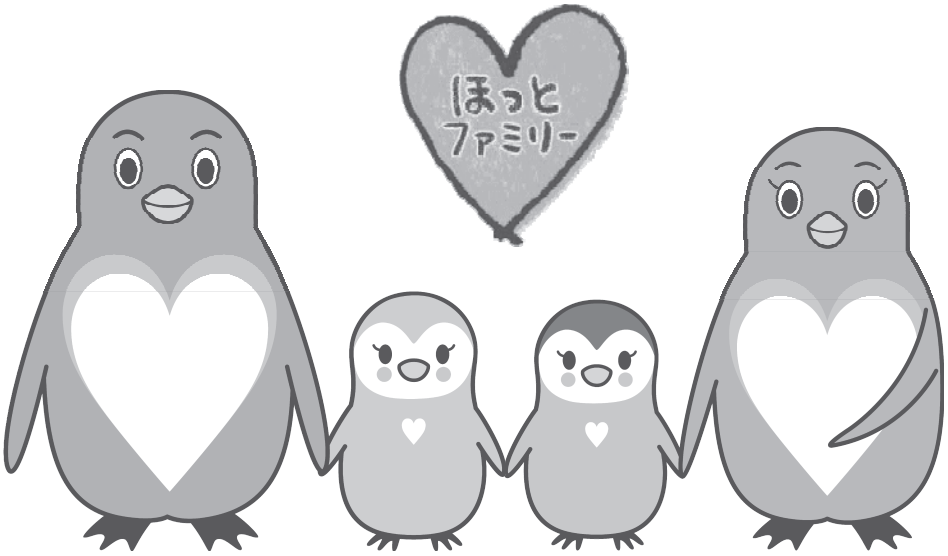
東京都福祉保健局少子社会対策部育成支援課里親担当

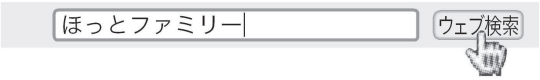
〒163-8001　新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号

電話　０３－５３２０－４１３５

http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kodomo/satooya/seido/hotfamily/index.html

ほっとファミリーは養育家庭の愛称です。





こちらのホームページもご覧ください。
http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kodomo/satooya/seido/hotfamily/index.html

養育家庭（里親）体験発表集
令和2年8月発行

登録番号（2）89

発　行　東京都福祉保健局少子社会対策部育成支援課
東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話03（5320）4135　ﾌｧｸｼﾐﾘ03（5388）1406
印刷所　東京都同胞援護会事業局
東京都墨田区両国四丁目1番8号
電話03（5669）0261

古紙配合率70%再生紙を使用しています
リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。